# FUJIFILM

# 表示アプリケーション管理ツー ルのヘルプ ArcSuite 4.0

# はじめに

このたびは富士フイルムビジネスイノベーションのArcSuite<sup>®</sup>をご利用いただき、まことにありがとうございます。

一般に、企業活動では、各業務に関する情報はさまざまな形態のドキュメントとして存在しています。ここでいうドキュメントとは、紙に書かれた文書だけを示す狭義のものではありません。紙はもちろんのこと、ホワイトボードに書かれた文字や図表、プロジェクターやテレビに映し出された映像などを含む広義なものを指します。 ドキュメントは一般に、ひとりの手で作成されるものではなく、複数の人の意見交換や討議を経て作成されます。 単純な作業や複雑な計算はコンピューターに委ねられ、あらゆる分野でさまざまなソリューションが展開されていますが、ドキュメントの作成では一般に人が中心なのです。

ArcSuiteは、「ドキュメント」に着目して「人」と「人」をつなぐ、「ドキュメント指向」のソリューション・ パッケージです。ArcSuiteをご利用いただくことによって、さまざまなコンピューターシステムを統合したうえ でのドキュメントの共有や管理が可能になります。

お使いの商品構成によって、次の機能が標準で提供されないことがあります。

コラボスペース、ドキュメントレビューオプション、ワークフロー、分類ビュー、関連文書検索サービス、原本性 保証オプション、キャプチャリングサービス、統合検索サービス、オンラインバックアップオプション、ドキュメ ントー括操作ツール、連携フォルダ for DocuWorks、連携オプション for Working Folder

本書の内容は、Microsoft Windows Operating System、およびWebブラウザーの基本的な知識や操作方法を習得されているかたを対象として記述しています。

Excel、Internet Explorer、Microsoft、PowerPoint、Windows、およびWindows Serverは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。 OracleとJavaは、Oracle Corporation及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Xerox、Xeroxロゴ、およびFuji Xerox ロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。

その他の社名または商品名などは、各社の登録商標または商標です。 Microsoft Corporationの許可を得て画面写真を使用しています。

・本書の編集、変更、または無断での転載はしないでください。

- ・本書に記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- ・本書に記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OSのバージョンによって 異なることがあります。

FUJIFILM、およびFUJIFILM ロゴは、富士フイルム株式会社の登録商標または商標です。 ArcSuite、DocuWorks、および Working Folderは、富士フイルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標 または商標です。

# 著作権について

本ソフトウェア、およびバックアップのために複製されたソフトウェアに関する著作権等を含む一切の無体財 産権は、弊社および弊社への供給者に帰属します。 (c) 2002-2021 FUJIFILM Business Innovation Corp.

# マニュアル体系

ArcSuiteには、次のマニュアルおよびヘルプがあります。 マニュアルは、PDFファイルまたはヘルプの形式で提供しています。 主なマニュアルは、『ポータル画面のヘルプ』から参照できます。『ポータル画面のヘルプ』は、Webブラウ ザーの操作画面にある[ヘルプ]から表示できます。

補足お使いの商品構成によっては、提供されない機能の説明がマニュアルに含まれることがあります。

#### ■ 管理者ユーザー向け

名称	概要
セットアップガイド	本製品全体のセットアップ方法について説明しています。
システム管理者ガイド	リソース管理サービスの概要、機能、管理操作を行うコマンドについ て説明しています。また、本製品の運用に必要な管理作業について説 明しています。
ドキュメント管理サービス管理者	ドキュメント管理サービスの概要、機能、および管理操作を行うコマ
ガイド	ンドについて説明しています。
ドキュメント管理サービス管理ア プリケーション デスクトップ版の ヘルプ	サーバーで行うドキュメント管理サービスの管理操作について説明し ています。
ドキュメント管理サービス管理 アプリケーション Web版のヘル プ	クライアントPCで行うドキュメント管理サービスの管理操作について 説明しています。
オフラインバックアップ・	オフラインバックアップ機能の操作、およびリストア機能の操作につ
リストア運用ガイド	いて説明しています。
リソース管理アプリケーションの	ユーザー、グループ、ユーザーロールの追加、およびライセンスの編
ヘルプ	集、検索について説明しています。
ログインサーバー管理アプリケー ションのヘルプ	ログインサーバーでの認証モードの設定について説明しています。
メッセージ通知管理アプリケー	メッセージ通知サーバーの設定、メッセージのスプール管理、メッ
ションのヘルプ	セージテンプレートの設定について説明しています。
ポータル管理アプリケーションの	ユーザープロファイルに表示する項目の設定、お知らせの設定につい
ヘルプ	て説明しています。
ドキュメントスペース管理アプリ	属性テンプレートや表示する属性の設定、表示するボタンの設定、お
ケーションのヘルプ	よびシステム環境の設定について説明しています。
表示アプリケーション管理ツール	表示アプリケーションのテンプレート、システム環境の設定について
のヘルプ(本書)	説明しています。
ログ管理アプリケーションの	ログを表示する機能、ログを取得する機能、および保守情報を一括で
ヘルプ	取得する機能について説明しています。

名称	概要
監視ツールのヘルプ	ArcSuiteのコンポーネントにアクセスしているユーザー、データベー スの状態、およびセッションの状態を監視する機能について説明して います。
ドキュメントスペースドキュメン	ドキュメントスペースの機能にURLを使用して接続する機能について
ト操作URLリファレンスガイド	説明しています。
オンラインバックアップ・	オンラインバックアップ機能の操作、およびリストア機能の操作につ
リストア運用ガイド	いて説明しています。
e-文書法対応 概要説明書	e-文書法対応の概要および原本性保証オプションの機能について説明 しています。
コラボスペース管理アプリケー	コラボスペースのメールの設定、ログの設定、およびタスクやメッ
ションのヘルプ	セージの用語をカスタマイズする設定について説明しています。
ワークフロー管理アプリケーショ	ワークフロー定義または起動テンプレートの作成者および公開者の設
ンのヘルプ	定、ログの設定、外部コマンドの設定について説明しています。
キャプチャリング管理アプリケー	キャプチャリングサービスの監視キューに対する操作について説明し
ションのヘルプ	ています。
統合検索サービス管理アプリケー	統合検索サービスのリソースの設定、収集スケジュールの設定、およ
ションのヘルプ	びシステム環境の設定について説明しています。
コラボスペースタスク操作URL	コラボスペースの機能にURLを使用して接続する機能について説明し
リファレンスガイド	ています。
ワークフロー操作URLリファレン	ワークフローの機能にURLを使用して接続する機能について説明して
スガイド	います。
Webサービスインターフェイス	ArcSuiteの機能にSOAPを使用して接続するAPIについて説明してい
リファレンスガイド	ます。
ドキュメント管理サービスSDK	ドキュメント管理サービスのオブジェクトを処理するコマンドについ
リファレンスガイド	て説明しています。
コラボスペースInterface Toolkit	コラボスペースのオブジェクトを処理するコマンドについて説明して
リファレンスガイド	います。
ワークフロー Interface Toolkit	ワークフローのオブジェクトを処理するコマンドについて説明してい
リファレンスガイド	ます。

# ■ クライアントユーザー向け

名称	概要
ポータル画面のヘルプ	ポータル画面で、お気に入りの編集、ユーザープロファイルを変更す る操作について説明しています。 Webブラウザーの操作画面にある[ヘルプ]から参照してください。
アドレス帳のヘルプ	アドレス帳で、ユーザー、グループ、ユーザーロール、およびタスク を検索する操作について説明しています。
ドキュメントスペースのヘルプ	ドキュメントスペースで、登録、属性の変更、検索などのドキュメン トを管理する機能の操作について説明しています。
表示アプリケーションのヘルプ	表示アプリケーションで、ブラウザーイメージ変換された画像を編集 する操作、およびユーザー設定について説明しています。
検索条件式のヘルプ	ドキュメントスペースの詳細検索で、全文検索または属性検索の条件 式をXMLで指定するときの記述方法について説明しています。

名称	概要
簡易操作のヘルプ	簡易操作画面でドキュメントを管理する機能の操作、および操作画面 の設定方法について説明しています。
コラボスペースのヘルプ	コラボスペースで、タスクの作成、メッセージの登録、および検索な どの操作について説明しています。
ワークフローのヘルプ	ワークフローで、ワークフロー定義の作成、公開および起動する操作、 作業を実行する操作について説明しています。
ドキュメントー括操作ツール説明	Microsoft Excelを使って、ドキュメント管理サービスのオブジェクト
書	を処理する操作について説明しています。
デスクトップクライアント セット	デスクトップクライアントのセットアップ方法について説明していま
アップガイド	す。
デスクトップクライアント 操作説	デスクトップクライアントで、ドキュメント管理サービスのフォル
明書	ダーやドキュメントにアクセスする操作方法について説明しています。
連携フォルダ for DocuWorks	連携フォルダ for DocuWorksのセットアップ方法について説明して
セットアップガイド	います。
連携フォルダ for DocuWorksの	DocuWorks Deskで、ArcSuiteに登録されているドキュメントを操
ヘルプ <sup>(*1)</sup>	作する方法について説明しています。

\*1: 連携フォルダ for DocuWorks をインストールした DocuWorks Desk のヘルプから参照してください。

# 本書の使い方

本書は、ArcSuiteの基本的な操作について説明しています。

#### ■ 本書の構成

本書は、次の章から構成されています。

1 表示アプリケーション管理ツールとは

表示アプリケーション管理ツールの概要について説明しています。

2 表示アプリケーション管理ツールでできること

画像表示の設定方法について説明しています。

#### 3 スタンプに指定する文字列について

スタンプの記述について説明しています。

#### ■ 本書の表記

・本書では、次の記号を使用しています。

<>+-	キーボードのキーを表します。 例: <enter>キーを押します。</enter>
[]	画面に表示されるメニュー、ボタン、項目を表します。 例:[新規作成] をクリックします。
[]]	同一マニュアル内の参照箇所を表します。 また、強調する用語やメッセージも表します。 例:「1 概要」 「名前が指定されていません。」と表示されます。

ſ	参照するマニュアルの名前を表します。 例: 『システム管理者ガイド』
{ }	ユーザー名やサーバー名など、操作時に変わる値を表します。 例: [{ユーザー名}] をクリックします。
>	メニューやWebページの階層を表します。 例:[システムとセキュリティ]>[管理ツール]
注記	一般的な注意事項を表します。
補足	機能や操作に関する補足説明を表します。
参照	参照する事項があることを表します。
	参照先タイトルやページへのリンクがあることを表します。 例: <u>「1 概要」(P.6)</u>

・Microsoft Windows Operating System を「Windows」と表記しています。

・パーソナルコンピューターを「PC」と表記しています。

・お使いの環境によって、マニュアルに記載の画面と実際の画面が異なることがあります。

・特に表記がない場合の製品のバージョン番号は「4.0」です。

目次

1 表	示アプリ	「ケーション管理ツールとは	
1.1	表示アフ	プリケーション管理とは	. 10
	1.1.1	テンプレート管理	. 10
	1.1.2	ユーザー管理	. 10
	1.1.3	その他の設定管理	. 11
2 表	示アプリ	ケーション管理ツールでできること	
2.1	管理ツー	-ルを起動する	.13
	2.1.1	管理ツールを起動する手順	. 13
2.2	管理メニ	ニューを選択する	. 14
2.3	テンプレ	ノート選択権を設定する	. 15
		[テンプレート選択権の付与]ページの構成	. 15
		テンプレート選択権を追加する手順	. 16
		テンプレート選択権を削除する手順	. 16
2.4	ユーザ-	-を割り当てる	. 17
	-		. 17
		テンプレートにユーザー、グループ、ユーザーロールを割り当てる手順	. 18
		テンプレートに割り当てられているユーザー、グループ、ユーザーロールを解除する手順	₹ 19
2.5	未使用の	D設定情報を削除する	. 20
		[未使用の設定情報削除]ページ	. 20
		未使用の設定情報を削除する手順	. 20
2.6	テンプレ	ノートを作成する	.21
		「テンプレートー覧」ページの構成	. 22
		[テンプレート編集] ページの構成	. 23
		設定選択エリア	. 23
		[テンプレート作成]ダイアログボックスの構成	. 24
		テンプレートを作成する手順	. 25
	2.6.1	テンプレートの並び順を変更する	. 26
		[テンプレート順序変更] ダイアログボックス	. 26
		テンプレートの並び順を変更する手順	. 27
	2.6.2	共通の設定をする	27
		[テンプレート編集] - [共通設定] タブのページの構成	27
	262	・ 共通の設定を9る手順	28
	2.0.5	コンテント)ページの構成	. 29
		[コンテントタイプ] ダイアログボックスの構成	30
		[ユシテントナーフーフ] テージー ロンホランスの構成	31
		コンテントの表示方法を設定する手順	
	2.6.4	インデックスの表示方法を設定する	. 33
		[インデックス] ページの構成	. 33
		インデックスの表示方法を設定する手順	. 34
	2.6.5	マルチコンテントの表示方法を設定する	. 35
		[マルチコンテント] ページの構成	. 35
		マルチコンテントの表示方法を設定する手順	. 36
	2.6.6	マルチインデックスの表示方法を設定する	. 36
		[マルチインデックス]ページの構成	. 36
		マルチインデックスの表示方法を設定する手順	. 37

	2.6.7	インフレームの表示方法を設定する	. 38
		[インフレーム] ページの構成	. 38
		インフレームの表示方法を設定する手順	. 39
	2.6.8	スタンプを設定する	. 39
		[テンプレート編集]-[スタンプ]タブのページの構成	. 39
		[スタンプ設定] ページの構成	. 40
		スタンプを設定する手順	. 42
		スタンプを削除する手順	. 44
2.7	状態定拿	長を変更する	45
	,	~	. 45
		状態定義を変更する手順	. 45
28	アプリク	rーションの基本動作を設定する	46
2.0	, , , , ,	「アプリケーション基本動作設定」ページの構成	46
		アプリケーションの基本動作を設定する手順	47
2.0			ло
2.9	USER_	AGENT で設定する	40
		USER_AGENT 設た」ハーンの構成	. 48
		USER_AGEN1 を初祝に迫加9 るナ順	. 49
	N	USER_AGENT を削除する于順	. 49
2.10	ログの出	出力レベルを設定する	50
		[ログ設定] ページの構成	. 50
		ログの出力レベルを設定する手順	. 51
2.11	管理ツー	-ルを終了する	52
		管理ツールを終了する手順	. 52

# 3 スタンプに指定する文字列について

3.1	文字列展開の記述方法	
	埋め込み文字列スタンプ	
	セッション情報	54
3.2	文字列展開について	
	型	
	値の連結	55
3.3	式の記述について	
3.3	<b>式の記述について</b>	<b>56</b>
3.3	式の記述について オペランド オペレータ	<b>56</b> 
3.3	<b>式の記述について</b> オペランド オペレータ 空値の扱い	<b>56</b> 
3.3	<b>式の記述について</b> オペランド オペレータ 空値の扱い 多値の扱い	<b>56</b> 
3.3	<b>式の記述について</b> オペランド オペレータ 空値の扱い 多値の扱い 組み込み関数	<b>56</b> 

# 1 表示アプリケーション管理ツールとは

表示アプリケーション管理ツールの概要について説明しています。

# 1.1 表示アプリケーション管理とは

表示の設定情報をテンプレートとして管理します。 管理者は、このテンプレートを作成したり、編集したりすることができます。 また、テンプレートをユーザーに割り当てたり、ユーザーにテンプレート選択権を付与したりすることによって、 ユーザー情報を管理します。 参照しない設定情報を削除したり、表示アプリケーションの基本動作を設定したりすることもできます。

表示アプリケーション管理ツールの主な機能は、次の3つです。

# 1.1.1 テンプレート管理

テンプレートの一覧が表示されます。

この一覧から、テンプレートの新規作成、コピー、削除、編集、一覧内での順序の変更が実行できます。

参照 テンプレートの各機能については、次の項を参照してください。

・<u>「2.6 テンプレートを作成する」(P.21)</u>

・<u>「2.6.1 テンプレートの並び順を変更する」(P.26)</u>

# 1.1.2 ユーザー管理

ユーザー管理には、次の機能があります。

#### ■ テンプレート選択権の付与

管理者が作成したテンプレートをユーザーが選択する権限を「テンプレート選択権」と呼びます。 テンプレート選択権を付与されたユーザーは、画像を表示するときに使用するテンプレートを選択できます。 テンプレート選択権は、任意のユーザー以外に、グループ、ユーザーロールに対しても付与できます。

参照 ・テンプレート選択権を付与する方法については、<u>[2.3 テンプレート選択権を設定する](P.15)</u>を参照し てください。

・テンプレートを作成する方法については、「2.6 テンプレートを作成する」(P.21)を参照してください。

#### ■ ユーザー割り当て

defaultテンプレート以外のテンプレートに、ユーザー、グループ、ユーザーロールを割り当てる機能です。 割り当てられていないユーザーにはdefaultテンプレートが割り当てられます。

参照 ユーザー割り当ての方法については、「2.4 ユーザーを割り当てる」(P.17)を参照してください。

#### ■ 未使用の設定情報の削除

RMSに存在しないユーザーの情報を、データベースから削除する機能です。

参照 未使用の設定情報を削除する方法については、「2.5 未使用の設定情報を削除する」(P.20) を参照してくだ さい。

# 1.1.3 その他の設定管理

表示アプリケーションについて、次の設定をします。

#### ■ 状態設定

スタンプ設定を使用する条件の1つである状態定義を設定する機能です。

参照 状態定義を設定する方法については、「2.7 状態定義を変更する」(P.45)を参照してください。

#### ■ アプリケーション基本動作設定

表示アプリケーションの基本動作を設定する機能です。

参照 表示アプリケーションの基本動作を設定する方法については、「2.8 アプリケーションの基本動作を設定す <u>る|(P.46)</u>を参照してください。

#### ■ USER\_AGENT 設定

取得権はないが、表示権があるドキュメントを表示するためのUSER\_AGENTを追加する機能です。

参照 USER\_AGENT を設定する方法については、「2.9 USER\_AGENT を設定する」(P.48) を参照してください。

#### ■ ログ設定

表示アプリケーションにおけるログの出力レベルを設定する機能です。

参照 ログの出力レベルを設定する方法については、<u>「2.10 ログの出力レベルを設定する」(P.50)</u>を参照してく ださい。

# 2 表示アプリケーション管理ツールでできること

画像表示の設定方法について説明しています。

# 2.1 管理ツールを起動する

表示アプリケーション管理の操作は、[表示アプリケーション管理] 画面で行います。 ここでは、[表示アプリケーション管理] 画面の表示方法を説明します。

# 2.1.1 管理ツールを起動する手順

- **1.** [ポータル] 画面で、[システム管理] リンクをクリックします。 [システム管理] 画面が表示されます。
- **2.** [システム管理] 画面の左側にある [システム管理] から、[表示アプリケーション] をクリックします。 画面の右側に、表示アプリケーションの情報が表示されます。
- **3.** 管理アプリケーションのリンクをクリックします。 [ログイン] 画面が表示されます。
- **4.** 管理者権限を持つユーザーの [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。
- 5. [ログイン] をクリックします。

ログインに成功すると、「表示アプリケーション管理」画面が表示されます。

参照 管理アプリケーションの各設定の詳細については、次の各項を参照してください。

- ・<u>「2.3 テンプレート選択権を設定する」(P.15)</u>
- ・<u>「2.4 ユーザーを割り当てる」(P.17)</u>
- ・ [2.5 未使用の設定情報を削除する| (P.20)
- ・<u>「2.6 テンプレートを作成する」(P.21)</u>
- ・<u>「2.7 状態定義を変更する」(P.45)</u>
- ・「2.8 アプリケーションの基本動作を設定する」(P.46)
- ・<u>「2.9\_USER\_AGENTを設定する」(P.48)</u>
- 「2.10 ログの出力レベルを設定する」(P.50)

参照
 「ポータル] 画面の詳細については、「ポータル画面のヘルプ」を参照してください。
 「システム管理] 画面の詳細については、「ポータル画面のヘルプ」を参照してください。

# 2.2 管理メニューを選択する

表示アプリケーション管理ツールの設定は、画面の左側に表示される管理メニューから選択できます。



図:管理メニュー

[表示アプリケーション管理] の各項目について説明します。

項目	説明
[テンプレート一覧] リ	クリックすると、[テンプレート一覧] ページが表示されます。
	参照 [テンプレートー覧] ページの詳細については、 <u>「テンプレートー覧] ペー</u> <u>ジの構成 (P.22)</u> を参照してください。
[テンプレート選択権の	クリックすると、[テンプレート選択権の付与] ページが表示されます。
	参照 [テンプレート選択権の付与] ページの詳細については、 <u>[[テンプレート選</u> <u>択権の付与] ページの構成] (P.15)</u> を参照してください。
[ユーザー割り当て] リ	クリックすると、[ユーザー割り当て] ページが表示されます。
	参照 [ユーザー割り当て] ページの詳細については、「 <u>[ユーザー割り当て] ペー</u> <u>ジの構成  (P.17)</u> を参照してください。
[未使用の設定情報削除]	クリックすると、[未使用の設定情報削除] ページが表示されます。
020	参照 [未使用の設定情報削除] ページの詳細については、「 <u>「未使用の設定情報削</u> 除] ページ」(P.20)を参照してください。
[状態設定]リンク	クリックすると[状態設定]ページが表示されます。
	参照 [状態設定] ページの詳細については、「[状態設定] ページの構成 (P.45) を参照してください。
[アプリケーション基本	クリックすると、[アプリケーション基本動作設定] ページが表示されます。
勤作設定」 リンク	参照 [アプリケーション基本動作設定] ページの詳細については、 <u>[[アプリケー</u> ション基本動作設定] ページの構成] (P.46) を参照してください。
[USER_AGENT設定]	クリックすると、[USER_AGENT設定] ページが表示されます。
929	参照 [USER_AGENT設定] ページの詳細については、 <u>[[USER_AGENT設定]</u> <u>ページの構成」(P.48)</u> を参照してください。
[ログ設定] リンク	クリックすると、[ログ設定] ページが表示されます。
	参照 [ログ設定] ページの詳細については、「「ログ設定] ページの構成 (P.50) を参照してください。

# 2.3 テンプレート選択権を設定する

テンプレート選択権を任意のユーザー、グループ、ユーザーロールに対して設定できます。

テンプレート選択権を付与されたユーザーは、画像を表示するためのテンプレートの一覧から、使用するテンプ レートを選択できます。

テンプレート選択権は、ユーザーかグループ、ロールを指定して割り当てることができます。

ここでは、テンプレート選択権を割り当てる手順を説明します。

## [テンプレート選択権の付与] ページの構成

[テンプレート選択権の付与]ページでは、ユーザー、グループ、ユーザーロールにテンプレート選択権を付与できます。

[表示アプリケーション管理] で、[テンプレート選択権の付与] をクリックすると、[テンプレート選択権の 付与] ページが表示されます。

🔍 テンプレート選択権の付与	
テンプレート選択権をもつユーザーを編集できます。	
	設定キャンセル
ユーザー <u>魚</u> 追加 富士 A男 富士 B子 富士 B男 縦り込み: 100 ▼ Q. 縦り込み	

図:[テンプレート選択権の付与] ページ

[テンプレート選択権の付与]ページの各項目について説明します。

項目	説明
[設定]	クリックすると、[ユーザー]、[グループ]、[ユーザーロール] エリアのリスト に表示されているユーザー、グループ、ユーザーロールにテンプレート選択権 を付与します。
[キャンセル]	クリックすると、[ユーザー]、[グループ]、[ユーザーロール] エリアのリスト の変更を破棄して、編集前の状態に戻ります。
[ユーザー] 、[グルー プ] 、[ユーザーロール] エリアのリスト	テンプレート選択権を付与しているユーザー、グループ、ユーザーロールの一 覧が表示されます。
[追加]	クリックすると、[アドレス帳]画面が表示されます。[アドレス帳]画面で、 テンプレート選択権を付与するユーザーを選択します。
	参照 [アドレス帳] 画面でのユーザーの選択方法については、『アドレス帳のへ ルプ』を参照してください。
[削除]	クリックすると、[ユーザー]、[グループ]、[ユーザーロール] エリアのリスト で選択したユーザー、グループ、ユーザーロールをリストから削除します。
[絞り込み]	[ユーザー] エリアのリストに表示されるユーザーを絞り込むためのユーザー名 (表示名、ふりがな、cn)を入力します。
最大表示人数のプルダウ ンメニュー	[ユーザー] エリアのリストに表示されるユーザーの最大表示人数を選択しま す。

項目	説明
[絞り込み]	クリックすると、[絞り込み]の内容でユーザーの絞り込みを行い、最大表示人 数のプルダウンメニューの人数でリストを表示します。

# テンプレート選択権を追加する手順

 テンプレート選択権を追加するユーザー、グループ、ユーザーロールに応じて、[ユーザー] 欄、[グ ループ] 欄、[ユーザーロール] 欄の[追加] をクリックします。
 別ウィンドウに[アドレス帳] 画面が表示されます。

参照 [アドレス帳] 画面の詳細については、『アドレス帳のヘルプ』を参照してください。

- 2. [アドレス帳] 画面で、テンプレート選択権を追加するユーザー、グループ、ユーザーロールを選択します。
- 3. [追加] をクリックします。

[テンプレート選択権の付与]ページの[ユーザー]欄、[グループ]欄、[ユーザーロール]欄の一覧 に、[アドレス帳]画面で選択したユーザー、グループ、ユーザーロールが追加されます。

補足
 [ユーザー]欄のユーザーの一覧は、ユーザーの人数が多い場合は該当ユーザーが多い旨のメッセージが表示され、ユーザーは表示されません。
 ユーザーを絞り込む場合は、[ユーザー]欄の[絞り込み]にユーザー名(表示名、ふりがな、cn)を

スカし、一覧に表示する最大件数をプルダウンメニューから選択してから、[絞り込み]をクリックします。

4. [設定] をクリックします。

一覧の内容でテンプレート選択権が設定されます。

# テンプレート選択権を削除する手順

**1.** [ユーザー] 欄、[グループ] 欄、[ユーザーロール] 欄の一覧で、テンプレート選択権を削除するユー ザー、グループ、ユーザーロールを選択します。

補足
 [ユーザー]欄のユーザーの一覧は、ユーザーの人数が多い場合は該当ユーザーが多い旨のメッセージが表示され、ユーザーは表示されません。
 ユーザーを絞り込む場合は、[ユーザー]欄の[絞り込み]にユーザー名(表示名、ふりがな、cn)を入力し、一覧に表示する最大件数をプルダウンメニューから選択してから、[絞り込み]をクリックします。

- **2.** [削除] をクリックします。 選択したユーザー、グループ、ユーザーロールが、一覧から削除されます。
- **3.** [設定] をクリックします。 一覧の内容でテンプレート選択権が設定されます。

# 2.4 ユーザーを割り当てる

defaultテンプレート以外のテンプレートに、ユーザー、グループ、ユーザーロールを割り当てることができます。

割り当てをしていないユーザーには、defaultテンプレートが割り当てられています。

表示アプリケーションで画像を表示するときに使われるテンプレートは、次の優先順位に従って決定されます。

- (1) ユーザーにテンプレートが割り当てられていれば、そのテンプレートを使用する。
- (2) ユーザーが属するグループまたはユーザーロールが割り当てられているテンプレートの中で一番若い順番のテンプレートを使用する。
- (3) default のテンプレートを使用する。

ここでは、ユーザーを割り当てる手順を説明します。

# [ユーザー割り当て] ページの構成

[ユーザー割り当て]ページでは、管理者が作成したテンプレートを適用するユーザー、グループ、ユーザー ロールを選択または解除できます。

[表示アプリケーション管理] で、[ユーザー割り当て] リンクをクリックすると、[ユーザー割り当て] ページが表示されます。

🔍 ユーザー割り当て	
各テンプレートに割り当てるユーザーを編集できます。	
	設定 キャンセル
適用ブラウザ: すべて V テンプレート: template1 V	
2 追加 ×削除	
□ 富士A男 宮+B子	
atB男	
綾り込み: 100 ✓ ♀ 絞り込み	
グループ	

図:[ユーザー割り当て] ページ

[ユーザー割り当て]ページの各項目について説明します。

項目	説明
[設定]	クリックすると、[ユーザー]、[グループ]、[ユーザーロール] エリアのリスト に表示されているユーザー、グループ、ユーザーロールにテンプレートを適用 します。
[キャンセル]	クリックすると、[ユーザー]、[グループ]、[ユーザーロール] エリアのリスト の変更を破棄して、編集前の状態に戻ります。
[適用ブラウザ] プルダ ウンメニュー	ユーザーを割り当てるテンプレートの、[適用ブラウザ]に設定されている項目 を選択します。
	<ul> <li>補足</li> <li>・ [すべて]を選択した場合、defaultテンプレート以外のすべてのテンプ レートが対象になります。</li> <li>・ 対象のテンプレートが存在しない場合は、エラーメッセージが表示され ます。</li> </ul>
	参照 テンプレートの [適用ブラウザ] の設定については、「 <u>「テンプレート編</u> <u>集]- [共通設定] タブのページの構成 (P.27)</u> を参照してください。
[テンプレート] プルダ ウンメニュー	作成されているテンプレート名を選択します。 表示されるのは、defaultテンプレート以外のテンプレートで、[適用ブラウザ] プルダウンメニューで選択した項目が、[適用ブラウザ] として設定されている テンプレートです。
[ユーザー]、[グルー プ]、[ユーザーロール] エリアのリスト	テンプレートを適用するユーザー、グループ、ユーザーロールの一覧が表示されます。
[追加]	クリックすると、[アドレス帳]画面が表示されます。[アドレス帳]画面で、 テンプレートに割り当てたいユーザーを選択してください。
	参照 [アドレス帳] 画面でのユーザーの選択方法については、『アドレス帳のへ ルプ』を参照してください。
[削除]	クリックすると、[ユーザー] 、[グループ] 、[ユーザーロール] エリアのリスト で選択したユーザー、グループ、ユーザーロールをリストから削除します。
[絞り込み]	[ユーザー] エリアのリストに表示されるユーザーを絞り込むためのユーザー名 (表示名、ふりがな、cn)を入力します。
最大表示人数のプルダウ ンメニュー	[ユーザー] エリアのリストに表示されるユーザーの最大表示人数を選択します。
[絞り込み]	クリックすると、[絞り込み]の内容でユーザーの絞り込みを行い、最大表示人数のプルダウンメニューの人数でリストを表示します。

# テンプレートにユーザー、グループ、ユーザーロールを割り当てる手順

- 1. [適用ブラウザ] プルダウンメニューから、ユーザーを割り当てるテンプレートの [適用ブラウザ] に設定されている項目を選択します。
  - 補足 · [すべて] を選択した場合、default テンプレート以外のすべてのテンプレートが対象になります。 ・対象のテンプレートが存在しない場合は、エラーメッセージが表示されます。
- 2. [テンプレート] プルダウンメニューから、ユーザーを割り当てるテンプレートを選択します。

補足 選択できるのは、default テンプレート以外のテンプレートのうち、手順 1. で選択した項目が [適用 ブラウザ] として設定されているテンプレートです。  テンプレートに割り当てるユーザー、グループ、ユーザーロールに応じて、[ユーザー]欄、[グループ] 欄、[ユーザーロール]欄の[追加]をクリックします。
 別ウィンドウに[アドレス帳]画面が表示されます。

参照 [アドレス帳] 画面の詳細については、『アドレス帳のヘルプ』を参照してください。

- 4. [アドレス帳] 画面で、テンプレートに割り当てるユーザー、グループ、ユーザーロールを選択します。
- 5. [追加] をクリックします。

[ユーザー割り当て]ページの [ユーザー]欄、[グループ]欄、[ユーザーロール]欄の一覧に、[アドレス帳] 画面で選択したユーザー、グループ、ユーザーロールが追加されます。

補足 [ユーザー] 欄のユーザーの一覧は、ユーザーの人数が多い場合は該当ユーザーが多い旨のメッセージ が表示され、ユーザーは表示されません。 ユーザーを絞り込む場合は、[ユーザー] 欄の [絞り込み] にユーザー名(表示名、ふりがな、cn)を 入力し、一覧に表示する最大件数をプルダウンメニューから選択してから、[絞り込み] をクリックし ます。

6. [設定] をクリックします。

一覧の内容でテンプレートにユーザーが割り当てられます。

補足 テンプレート選択権が付与されたユーザーが、あるテンプレートを選択した場合、自動的にそのテン プレートの使用ユーザーとして割り当てられます。

# テンプレートに割り当てられているユーザー、グループ、ユーザーロールを 解除する手順

- [テンプレート] プルダウンメニューから、ユーザーの割り当てを解除するテンプレートを選択します。
   補足 選択できるのは、default テンプレート以外のテンプレートです。
- **2.** [ユーザー] 欄、[グループ] 欄、[ユーザーロール] 欄の一覧で、割り当てを解除するユーザー、グループ、ユーザーロールを選択します。

補足
 [ユーザー]欄のユーザーの一覧は、ユーザーの人数が多い場合は該当ユーザーが多い旨のメッセージが表示され、ユーザーは表示されません。
 ユーザーを絞り込む場合は、[ユーザー]欄の[絞り込み]にユーザー名(表示名、ふりがな、cn)を入力し、一覧に表示する最大件数をプルダウンメニューから選択してから、[絞り込み]をクリックします。

- **3.** [削除] をクリックします。 選択したユーザー、グループ、ユーザーロールが、一覧から削除されます。
- **4.** [設定] をクリックします。 一覧の内容でテンプレートにユーザーが割り当てられます。

# 2.5 未使用の設定情報を削除する

RMSに存在しないユーザーの情報を、データベースから削除できます。 ここでは、未使用の設定情報を削除する手順を説明します。

# [未使用の設定情報削除] ページ

[未使用の設定情報削除] ページでは、RMSに存在しないユーザーの情報を設定DBから削除できます。

削除対象とする設定情報が存在しないときは、メッセージが表示されます。削除対象とする設定情報が存在す るときは、削除の対象とするユーザーの人数が表示されます。

[表示アプリケーション管理] で、[未使用の設定情報削除] リンクをクリックすると、[未使用の設定情報削除] ページが表示されます。

# 余使用の設定情報削除 RMSIC存在しないユーザーがもつユーザー設定を削除できます。 ★削除 全ての設定情報は使用されています。

図: [未使用の設定情報削除] ページ(削除対象とする設定情報がない場合)

[未使用の設定情報削除]ページの各項目について説明します。

項目	説明
[削除]	クリックすると、ユーザーの情報が設定DBから削除されます。未使用の設定情報 がない場合には、ボタンはクリックできません。

# 未使用の設定情報を削除する手順

1.[削除] をクリックします。

データベースから、ユーザーの情報が削除されます。

#### テンプレートを作成する 2.6

テンプレートとは、表示アプリケーションを使用して表示される画像の変換方法や表示方法を、表示する操作の種 類ごとに設定したものです。

ユーザーには、管理者の作成したテンプレートの設定に基づいて変換された画像が表示されます。 テンプレートは、表示アプリケーションの管理者が作成します。複数のテンプレートを作成できます。 テンプレートには、次の項目を設定できます。

#### ■ 名前設定

テンプレートを新規作成するときは、テンプレートの名前とコメントを設定します。テンプレートを編集する ときは、コメントだけを入力できます。

新規作成時に設定した名前は、あとで変更できません。

#### ■ コンテント表示設定

コンテントを表示する場合の、画像の変換方法や画像の解像度などを設定します。コンテントタイプごとに設 定します。

参照 コンテント表示設定の詳細については、<u>2.6.3 コンテントの表示方法を設定する (P.29)</u>を参照してくだ さい。

#### ■ インデックス表示設定

インデックスを表示する場合の、画像の変換方法を設定します。

参照 インデックス表示設定の詳細については、<u>「2.6.4 インデックスの表示方法を設定する」(P.33)</u>を参照して ください。

#### ■ マルチコンテント表示設定

複数のドキュメントのコンテントを表示する場合の、画像の変換方法と表示方法、対象ページを設定します。

参照 マルチコンテント表示設定の詳細については、「2.6.5 マルチコンテントの表示方法を設定する」(P.35)を 参照してください。

#### ■ マルチインデックス表示設定

複数のドキュメントのインデックスを表示する場合の、画像の変換方法とインデックスを作成するときの対象 ページを設定します。

参照 マルチインデックス表示設定の詳細については、「2.6.6 マルチインデックスの表示方法を設定する| (P.36) を参照してください。

#### ■ インフレーム表示設定

外部アプリケーションからナビゲーションモードとして起動された場合の、画像変換方法や解像度などを、プ ライマリ画像やプリント画像など画像の種類ごとに設定します。

参照 インフレーム表示設定の詳細については、「2.6.7 インフレームの表示方法を設定する」(P.38)を参照して ください。

#### ■共通設定

[コントロールビュー]を使用するかや、表示対象にフォルダーを選択したときの動作などを設定します。

- 注記 Web ブラウザーが Internet Explorer 以外の場合、[コントロールビュー]は使用できません。
- 補足
  共通設定のコントロールビューの設定内容は、ドキュメントスペースのコントロールダウンロードでも使用 されます。
- 参照 共通設定の詳細と [コントロールビュー] の機能と詳細については、[2.6.2 共通の設定をする] (P.27) を 参照してください。

■ スタンプ設定

画像にスタンプを押す場合の、スタンプの種類やスタンプの位置などを設定します。 参照 スタンプ設定の詳細については、「2.6.8 スタンプを設定する」(P.39)を参照してください。

ここでは、テンプレートの作成手順の概要を説明します。

補足 インストール直後には、[default] のテンプレートだけが用意されています。

# [テンプレート一覧] ページの構成

[テンプレート一覧]ページでは、テンプレートの一覧を確認できます。

[表示アプリケーション管理] で、[テンプレート一覧] リンクをクリックすると、[テンプレート一覧] ページが表示されます。



図:[テンプレート一覧]ページ

[テンプレート一覧]ページの各項目について説明します。

項目	説明
[順序変更]	クリックすると、[テンプレート順序変更]ダイアログボックスで、[テンプ レート一覧]ページに表示するテンプレートの並び順を変更できます。
	参照 [テンプレート順序変更] ダイアログボックスの詳細については、「2.6.1 <u>テンプレートの並び順を変更する (P.26)</u> を参照してください。
[作成]	クリックすると、新しいテンプレートを作成するための画面が表示されます。
	参照 テンプレートの作成手順については、「 <u>2.6 テンプレートを作成する</u> 」 ( <u>P.21)</u> を参照してください。
[テンプレート一覧]	作成されているテンプレートの一覧が表示されます。一覧には、各テンプレー トの名前、適用するWebブラウザー、コメント、操作用のボタンが表示されま す。
	操作用のボタンは、テンプレートを編集したり、既存のテンプレートをコピー して、新規テンプレートを作成したり、テンプレートを削除するときに使用し ます。
⊘([編集] アイコン)	クリックすると、[テンプレート編集]ページで、テンプレート名以外の設定内 容を修正できます。
	参照 [テンプレート編集] ページについては、「 <u>「テンプレート編集] ページの構</u> <u>成  (P.23)</u> を参照してください。
₲[[コピー] アイコン)	クリックすると、ラジオボタンで選択されているテンプレートがコピーされて、 新しいテンプレートを作成するための画面が表示されます。
╳([削除] アイコン)	クリックすると、ラジオボタンで選択されているテンプレートが削除されます。
	補足 [default] テンプレートは、削除できません。

# [テンプレート編集] ページの構成

[テンプレート編集] ページでは、表示アプリケーションの管理者がテンプレートの設定内容を編集できます。 [テンプレートー覧] ページで、 ([編集] アイコン)をクリックすると、[テンプレート編集] ページが表示されます。

1	━ 設定選択エリア	
��、テンプレート編集		
テンプレート: default		
共通設定 <u>表示設定</u>	スタンプ	
		設定リセット
名前	値	
コメント(必須):	This is default template.	
コントロールビュー:	☑ 使用する	
表示可能なドキュメント数(1~10000)(必須):	100	
表示対象の版:	● 最新版 ○全ての版	
フォルダの展開方法:	●直下のみ ○末端まで	
適用ブラウザ:	共通 🗸	
		設定 リセット

図:[テンプレート編集] ページ

補足 [テンプレート編集] ページに表示されるページの詳細については、各項を参照してください。

# 設定選択エリア

上部エリアでは、タブとボタンで下部エリアに表示されるページを切り替えることができます。 タブとボタンは、[テンプレート編集]ページの上部エリアに表示されます。

	<u>設定</u>	表示	記定	スタンプ	
コンテント	マルチコン	ノテント	インデックス	マルチインデックス	ス インフレーム

図:メインメニュー

メインメニューの各項目について説明します。

項目	説明
[共通設定] タブ	クリックすると、[テンプレート編集]ページの下部エリアに、ドキュメントの転記や 印刷を制限するための[共通設定]タブのページが表示されます。
	参照 [共通設定] タブのページの詳細については、 <u>「「テンプレート編集」 – [共通設定]</u> タブのページの構成」(P.27) を参照してください。

項目	説明
- [表示設定] タブ	クリックすると、[テンプレート編集]ページの下部エリアに、表示を設定するための [表示設定] タブのページが表示されます。また、[表示設定] タブのページだけに次の ボタンが表示されます。
	・ <b>[コンテント]</b> クリックすると、[表示設定] タブのページの下部エリアに、[コンテント] ページが 表示されます。
	参照 [コンテント] ページの詳細については、 <u>「[コンテント] ページの構成」(P.29)</u> を 参照してください。
	・[マルチコンテント]
	クリックすると、[表示設定] タブのページの下部エリアに、マルチコンテントの表 示方法を設定するための [マルチコンテント] ページが表示されます。
	参照 [マルチコンテント] ページの詳細については、 <u>「[マルチコンテント] ページの構成 </u> (P.35) を参照してください。
	・[インデックス]
	クリックすると、[表示設定] タブのページの下部エリアに、インデックスの表示方 法を設定するための [インデックス] ページが表示されます。
	参照 [インデックス] ページの詳細については、 <u>「「インデックス」ページの構成 (P.33)</u> を参照してください。
	・[マルチインデックス]
	クリックすると、[表示設定] タブのページの下部エリアに、マルチインデックスの 表示方法を設定するための[マルチインデックス]ページが表示されます。
	参照 [マルチインデックス] ページの詳細については、 <u>「「マルチインデックス]ページの</u> <u>構成」(P.36)</u> を参照してください。
	・[インフレーム]
	クリックすると、[表示設定] タブのページの下部エリアに、インフレームの表示方 法を設定するための [インフレーム] ページが表示されます。
	参照 [インフレーム] ページの詳細については、 <u>「[インフレーム] ページの構成 (P.38)</u> を参照してください。
[スタンプ] タブ	クリックすると、[テンプレート編集] ページの下部エリアに、スタンプを設定するた めの [スタンプ] タブのページが表示されます。
	参照 [スタンプ] タブのページの詳細については、 <u>[[テンプレート編集] – [スタンプ]</u> <u>タブのページの構成 (P.39)</u> を参照してください。

# [テンプレート作成] ダイアログボックスの構成

[テンプレート作成]ダイアログボックスでは、テンプレートの名前とコメントを設定できます。

[テンプレート一覧] ページで、[作成] か([コピー] アイコン) をクリックすると、[テンプレート作成] ダイアログボックスが表示されます。

[テンプレート作成] ダイアログボックスの各項目について説明します。

項目	説明
[名前 (必須)]	テンプレートの名前を入力します。
[コメント(必須)]	テンプレートのコメントを入力します。
[作成]	クリックすると、入力した内容が登録されます。
[キャンセル]	クリックすると、設定した内容を破棄して元に戻します。

# テンプレートを作成する手順

補 足
 ・ テンプレートは 400 個まで作成できます。
 ・ テンプレートの一覧の並び順を変更できます。テンプレートの一覧の並び順の変更手順については、
 「2.6.1 テンプレートの並び順を変更する」(P.26)を参照してください。

1. 作成方法に応じて、次のどちらかの手順を行います。

#### ◆ 新規に作成する場合

(1)[作成]をクリックします。 [テンプレート作成]ダイアログボックスが表示されます。

#### ◆ 既存のテンプレートをコピーして、新しいテンプレートを作成する場合

- (1) テンプレート一覧から、コピー元のテンプレートの日([コピー] アイコン)をクリックします。 [テンプレートコピー] ダイアログボックスが表示されます。
- 2. [テンプレート作成] ダイアログボックス、もしくは [テンプレートコピー] ダイアログボックスでテンプレートの名前とコメントを設定します。

それぞれ、256 バイト以内の文字数で入力します。

- 注記 · 新規テンプレートを作成する場合や、既存のテンプレートをコピーして新しいテンプレートを作成す る場合には、名前とコメントの入力は必須です。
  - ・設定した名前は、あとで変更することができません。
  - ・テンプレートの名前が入力されていない場合には、画像の表示設定などはできません。
- [作成] をクリックします。
   既存のテンプレートをコピーする場合は、[コピー] をクリックします。
   名前とコメントが登録されます。
   共通の設定を行う場合は、手順4に進みます。
   共通の設定を行わない場合は、手順5に進みます。

#### 4. [テンプレート編集] – [共通設定] タブのページで、共通の設定を行います。

コンテントの表示方法を設定する場合は、手順<u>5</u>に進みます。 コンテントの表示方法を設定しない場合は、手順<u>6</u>に進みます。

参照 共通の設定手順については、「2.6.2 共通の設定をする」(P.27)を参照してください。

#### **5.** [コンテント] ページおよび [ページサイズ設定] ページで、コンテント表示方法を設定します。 インデックスの表示方法を設定する場合は、手順 <u>6</u> に進みます。 インデックスの表示方法を設定しない場合は、手順 <u>7</u> に進みます。

参照 コンテントの表示方法の設定手順については、「2.6.3 コンテントの表示方法を設定する」(P.29)を 参照してください。

- **6.** [インデックス] ページで、インデックスの表示方法を設定します。 マルチコンテントの表示方法を設定する場合は、手順<u>7</u>に進みます。 マルチコンテントの表示方法を設定しない場合は、手順<u>8</u>に進みます。
  - 参照 インデックスの表示方法の設定手順については、「2.6.4 インデックスの表示方法を設定する」(P.33) を参照してください。

#### 7. [マルチコンテント]ページで、マルチコンテントの表示方法を設定します。

マルチインデックスの表示方法を設定する場合は、手順<u>8</u>に進みます。 マルチインデックスの表示方法を設定しない場合は、手順<u>9</u>に進みます。

参照 マルチコンテントの表示方法の設定手順については、「2.6.5 マルチコンテントの表示方法を設定す る|(P.35)を参照してください。

- 8. [マルチインデックス] ページで、マルチインデックスの表示方法を設定します。 インフレームの表示方法を設定する場合は、手順9に進みます。 インフレームの表示方法を設定しない場合は、手順10に進みます。
  - 参照 マルチインデックスの表示方法の設定手順については、「2.6.6 マルチインデックスの表示方法を設定 する」(P.36)を参照してください。
- **9.** [インフレーム] ページで、インフレームの表示方法を設定します。 スタンプの設定を行う場合は、手順<u>10</u>に進みます。 スタンプの設定を行わない場合は、手順<u>11</u>に進みます。

10.[スタンプ設定] タブのページで、スタンプを設定します。

参照 スタンプの設定手順については、「2.6.8 スタンプを設定する」(P.39)を参照してください。

11.ナビゲーションパネルの [テンプレート一覧] リンクをクリックします。 [テンプレート一覧] ページに戻ります。テンプレートの一覧には、作成したテンプレートが表示されます。

# 2.6.1 テンプレートの並び順を変更する

ここでは、テンプレートの並び順を変更する手順を説明します。

# [テンプレート順序変更] ダイアログボックス

[テンプレート順序変更]ダイアログボックスでは、[テンプレート一覧]ページに表示するテンプレートの並び順を変更できます。

[テンプレート一覧]ページで、[順序変更]をクリックすると、[テンプレート順序変更]ダイアログボック スが表示されます。

テンブレート順序変更	
🔇 テンブレート 順序変更	
template1 template2	$\stackrel{ \leftarrow}{\leftarrow}\rightarrow\rightarrow$
順序変更 キャン	セル

図:[テンプレート順序変更]ダイアログボックス

[テンプレート順序変更] ダイアログボックスの各項目について説明します。

項目	説明
[テンプレート順序] の リスト	[テンプレートー覧] ページに表示するテンプレートの並び順が表示されます。
▶([先頭] アイコン)	クリックすると、[テンプレートの並び順]のリストで選択したテンプレートの 並び順が、一番上に移動します。

参照 インフレームの表示方法の設定手順については、「2.6.7 インフレームの表示方法を設定する」(P.38) を参照してください。

項目	説明
♪([上へ] アイコン)	クリックすると、[テンプレートの並び順]のリストで選択したテンプレートの 並び順が、1つ上に移動します。
↓([下へ] アイコン)	クリックすると、[テンプレートの並び順]のリストで選択したテンプレートの 並び順が、1つ下に移動します。
业([最後] アイコン)	クリックすると、[テンプレートの並び順]のリストで選択したテンプレートの 並び順が、一番下に移動します。
[順序変更]	[テンプレートの並び順]のリストに表示されている順序でテンプレートの並び 順を設定し、[テンプレート一覧]ページに戻ります。
[キャンセル]	[テンプレートの並び順]のリストの変更を破棄して、[テンプレート一覧] ページに戻ります。

### テンプレートの並び順を変更する手順

- [テンプレートの順序]のリストから、並び順を変更するテンプレートを選択し、([上へ]アイコン)、
   ↓([下へ]アイコン)をクリックして、並び順を変更します。
- **2.** [順序変更] をクリックします。 [テンプレートの順序] のリストの内容で並び順が設定されます。

# 2.6.2 共通の設定をする

ここでは、[コントロールビュー]を使用するかどうかや、表示対象にフォルダーを選択したときの動作など を設定する手順を説明します。

# [テンプレート編集] – [共通設定] タブのページの構成

[テンプレート編集] - [共通設定] タブのページでは、[コントロールビュー] を使用するかどうかや、表示 対象にフォルダーを選択したときの動作などを設定できます。[コントロールビュー] を使用することによっ て、ドキュメントの転記、印刷、保存、およびアノテーションの編集を制限できます。

[テンプレート編集]ページで、[共通設定] タブをクリックすると、[テンプレート編集] – [共通設定] タブのページが表示されます。

🔍 テンプレート編集		
テンプレート: default		
共通設定 表示設定	スタンプ	
		設定 リセット
名前	値	
コメント(必須):	This is default template.	
コントロールビュー:	☑ 使用する	
表示可能なドキュメント数(1~10000)(必須):	100	
表示対象の版:	●最新版 ○全ての版	
フォルダの展開方法:	●直下のみ ○末端まで	
適用ブラウザ:	共通 ~	
		設定リセット

図:[テンプレート編集] - [共通設定] タブのページ

参照 [テンプレート編集] ページについては、「[テンプレート編集] ページの構成|(P.23) を参照してください。

[テンプレート編集] – [共通設定] タブのページの各項目について説明します。

項目	説明
[コメント (必須)] エリ ア	テンプレートのコメントを入力できます。

項目	説明
[コントロールビュー] エリア	[コントロールビュー]を使用するかどうかを設定します。使用する場合は、 [使用する] にチェックマークを付けます。
	<ul> <li>補足</li> <li>[コントロールビュー]とは、ユーザーが取得権または印刷権のどちらか一方、または両方の権限を所有しない場合、DocuWorks文書、DocuWorks バインダー(以降、「DocuWorksファイル」と表記します)、またはPDF ファイルに変換して表示する機能です。制限つきのDocuWorksファイルまたはPDFファイルに変換することによって、ドキュメントの転記、アノ テーションの編集、印刷、および保存を制限できます。</li> </ul>
[表示可能なドキュメン ト数(1~10000)(必 須)] エリア	マルチコンテント表示、マルチインデックス表示で指定できるドキュメントの 最大数を入力します。1~10,000の範囲で入力できます。
[表示対象の版] エリア	表示対象にフォルダーを選択したときの対象ドキュメントの表示方法を、ラジ オボタンで選択します。
[フォルダの展開方法] エリア	表示対象にフォルダーを選択したときのフォルダーの展開方法を、ラジオボタ ンで選択します。
[適用ブラウザ]エリア	テンプレートを適用するWebブラウザーを選択します。
	補足 defaultテンプレートの場合、[適用ブラウザ]は[共通]から変更できま せん。
[設定]	クリックすると、共通の設定が設定されます。
[リセット]	クリックすると、設定を編集前の状態に戻します。

#### 共通の設定をする手順

- 1. [コメント (必須)] エリアにテンプレートのコメントを入力します。
- 2. コントロールビューを使用する場合は、[使用する] にチェックマークを付けます。

[コントロールビュー]は、選択したドキュメントが取得権または印刷権を持つかどうかによって機能します。

取得権または印刷権のどちらか一方でもない場合は、[コントロールビュー]が機能します。ユーザーが 選択したドキュメントは、[コントロールビュー]によって、転記、印刷、および保存を制限した DocuWorks ファイルまたは PDF ファイルに変換して表示されます。

次にユーザーのドキュメントに対する権限と[コントロールビュー]機能時の DocuWorks ファイルおよび PDF ファイルの制限の関係を示します。

表:ユーザーのドキュメントに対する権限と[コントロールビュー]機能時の DocuWorks ファイル・ PDF ファイルの制限

○:制限あり、-:制限なし

ユーザーのドキュメントに対す る権限			DocuWorksファイル・PDFファイルの制限			
取得権	印刷権		転記制限	アノテー ション/ 注釈の編集 禁止	印刷制限	保存制限
あり	あり	<b>→</b>	—	—	—	—
あり	なし	<b>→</b>	0	0	0	—
なし	あり	<b>→</b>	0	0	—	0

表:ユーザーのドキュメントに対する権限と[コントロールビュー]機能時の DocuWorks ファイル・ PDF ファイルの制限

○:制限あり、-:制限なし

ユーザーのドキュメントに対す る権限			DocuWorksファイル・PDFファイルの制限			
取得権	印刷権		転記制限	アノテー ション/ 注釈の編集 禁止	印刷制限	保存制限
なし	なし	<b>→</b>	0	0	0	0

注記 HTML ファイルなど、コントロールビューに対応していないフォーマットもあります。

- 3. [表示可能なドキュメント数] エリアにマルチコンテント表示とマルチインデックス表示で表示できる最 大ドキュメント数を1~10,000の範囲で入力します。
- 4. [表示対象の版] エリアで、フォルダーを選択したときに表示する版を選択します。
- 5. [フォルダの展開方法] エリアで、フォルダーを選択したときの動作を選択します。
- 6. [適用ブラウザ] エリアで、テンプレートを適用する Web ブラウザーを選択します。
- **7.** [設定] をクリックします。 共通設定が適用されます。

### 2.6.3 コンテントの表示方法を設定する

ここでは、コンテントを表示する場合の画像の変換方法や、画像の解像度などを設定する手順を説明します。 コンテントの表示方法は、コンテントタイプ(tiff、bmpなど)ごとに設定します。

各コンテントタイプのページサイズごとに表示方法を設定できます。ページサイズが設定されていない場合 は、デフォルトの設定内容が適用されます。デフォルトの設定内容の編集もできます。

注記 複数のコンテントタイプが存在するファイルの場合、コンテントの表示方法は使用するすべてのコンテント タイプごとに設定してください。たとえば、Microsoft Word の場合、「.doc」と「.docx」のファイルを使 用するときは、それぞれのコンテントタイプで同じ表示設定をする必要があります。

# [コンテント] ページの構成

[コンテント] ページでは、コンテントタイプごとにコンテントの表示形式を設定できます。 [表示設定] タブのページで [コンテント] をクリックすると、[コンテント] ページが表示されます。

🔍 テンプレート編集
テンプレート: template1
共通設定 表示設定 スタンブ
コンテント マルチコンテント インデックス マルチインデックス インフレーム
application/STEP
コンテントタイブ選択 🥒作成
ページサイズ 画像変換方法 表示画像選択 解像度 スケール 画質 操作
default 無変換 プライマリ画像 🧷

図:[コンテント] ページ

参照 [表示設定] タブのページについては、「[テンプレート編集] ページの構成|(P.23) を参照してください。

[コンテント]ページの各項目について説明します。

項目	説明
[コンテントタイプ選択]	クリックすると、[コンテントタイプ] ダイアログボックスで、コンテントの表 示方法を設定できます。
	参照 [コンテントタイプ] ダイアログボックスについては、 <u>「[コンテントタイ</u> <u>プ] ダイアログボックスの構成 (P.30)</u> を参照してください。
[作成]	クリックすると、コンテントタイプに対して、新たにページサイズの設定をす るための [ページサイズ設定作成] ページが表示されます。
	補足追加可能なページサイズがない場合は、[作成]は表示されません。
[ページサイズ]	表示形式が設定されているページサイズが表示されます。
[画像変換方法]	画像変換方法が表示されます。
[表示画像選択]	コンテントの種類が表示されます。
[解像度]	画像の解像度が表示されます。
[スケール]	プライマリ画像作成時のスケールが表示されます。
[画質]	画像の画質が表示されます。
🖉 ([編集] アイコン)	クリックすると、ページサイズごとに設定内容を編集するための [ページサイ ズ設定編集] ページが表示されます。
×([削除] アイコン)	クリックすると、ページサイズの設定が削除されます。

# [コンテントタイプ] ダイアログボックスの構成

[コンテントタイプ]ダイアログボックスでは、コンテントの表示方法を設定するコンテントタイプを選択できます。

[コンテント]ページで、[コンテントタイプ選択]をクリックすると、[コンテントタイプ]ダイアログボックスが表示されます。



図:[コンテントタイプ] ダイアログボックス

参照 [コンテント] ページについては、「[コンテント] ページの構成|(P.29) を参照してください。

[コンテントタイプ]ダイアログボックスの各項目について説明します。

項目	説明
コンテントタイプの一覧	コンテントタイプの一覧が表示されます。表示方法を設定するコンテントタイ プを選択します。
[選択]	クリックすると、コンテントタイプの一覧で選択したコンテントタイプについ て、[コンテント] ページが表示されます。
[閉じる]	クリックすると、コンテントタイプを変更しないで、[コンテント]ページに戻 ります。

# [ページサイズ設定作成] ページ/ [ページサイズ設定編集] ページの構成

[ページサイズ設定作成] ページでは、コンテントタイプのページサイズごとに表示方法を設定できます。 [コンテント] ページで[作成] をクリックすると、[ページサイズ設定作成] ページが表示されます。 また、[コンテント] ページで[編集] アイコンをクリックすると、[ページサイズ設定編集] ページが表示されます。

補足 [ページサイズ設定作成]ページと [ページサイズ設定編集]ページには、同じ項目が表示されます。

コンテント マルチ	コンテント インデックス	マルチインデックス	インフレーム
ページサイズ 設	定作成		
コンテントタイプ:	application/STEP		
		作成	リセット 戻る
名前	値		
ページサイズ:	A4 🗸		
画像変換方法:	無変換 ∨		
表示画像選択:	プライマリ画像 🗸		
解像度:	72 🗸 dpi		
スケール:	100 🗸 %		
画質:	標準 🗸		
		作成	リセット 戻る

図:[ページサイズ設定作成] ページ

参照 [コンテント] ページについては、[[コンテント] ページの構成|(P.29) を参照してください。

[ページサイズ設定作成]ページおよび [ページサイズ設定編集]ページの各項目について説明します。

項目	説明
[ページサイズ] プルダ ウンメニュー	設定対象のページサイズを選択します。
	補足 [ページサイズ] プルダウンメニューは、ファイルフォーマット変換サービ スの設定内容に応じて、表示される数値が異なります。
[画像変換方法] プルダ	画像変換方法を選択します。
ワンメニュー	注記・画像変換方法を[TIFF変換]に設定した場合、[画質]は設定できません。 ・画像変換方法を[DocuWorks変換]または[無変換]に設定した場合、[画質]、[解像度]、[スケー ル]は設定できません。
[表示画像選択] プルダ	コンテントの種類を選択します。
ワンメニュー	補足 ファイルフォーマット変換サービスに設定されていないコンテントタイプ では、プライマリコンテントを変換できません。そのため、無変換以外の 画像変換方法では、[プリント画像]しか表示されません。

項目	説明
[解像度] プルダウンメ ニュー	表示される画像の解像度を選択します。
[スケール] プルダウン メニュー	表示される画像のスケールを選択します。
[画質] プルダウンメ ニュー	表示される画像の画質を選択します。
[作成]	クリックすると、ページサイズごとの表示方法が設定され、[コンテント]ページに戻ります。
[リセット]	クリックすると、設定を編集前の状態に戻します。
[戻る]	クリックすると、設定した内容を廃棄して、[コンテント]ページに戻ります。

# コンテントの表示方法を設定する手順

注記 [コントロールビュー]を使用している場合に、表示するドキュメントに対して取得権、印刷権のどちらかー 方でもないときは、画像変換方法が自動的に DocuWorks 変換になります。[コントロールビュー]を有効に していても、ドキュメントに対して取得権と印刷権双方を持っているときや、[コントロールビュー]を使用 していないときは、手順2 で選択した画像変換方法で変換されます。

参照 コントロールビューの詳細については「2.6.2 共通の設定をする」(P.27)を参照してください。

**1.** [コンテントタイプ] ダイアログボックスで、設定対象のコンテントタイプのリンク (image/tiff、 image/bmp など) をクリックします。

補足 設定対象のコンテントタイプは、ファイルフォーマット変換サービスと共通モジュールから提供されるコンテントタイプの一覧です。

2. 設定内容に応じて、次のどちらかの操作を行います。

◆ すでに設定されているページサイズの設定内容を変更する場合

(1) 対象のページサイズの右側の ([編集] アイコン) をクリックします。
 [ページサイズ設定編集] ページが表示されます。
 手順 <u>4</u> に進みます。

#### ◆ コンテントタイプのページサイズを新たに追加する場合

- (1) [作成] をクリックします。
   [ページサイズ設定作成] ページが表示されます。
   手順<u>3</u>に進みます。
- [ページサイズ] プルダウンメニューから、登録対象のコンテントタイプに適用するページサイズを選択します。

- 4. [画像変換方法] プルダウンメニューから、画像変換方法を選択します。
  - 注記 · [画像変換方法] プルダウンメニューから選択できる項目は、ファイルフォーマット変換サービスの 定義情報によって違います。ただし、[表示画像選択] を [プリント画像] に設定した場合は、すべ ての項目を選択できます。
    - ・「画像変換方法」を「TIFF変換」に設定した場合、「画質」は設定できません。
    - ・ [画像変換方法] を [DocuWorks 変換] または [無変換] に設定した場合、 [画質]、 [解像度]、
       [スケール] は設定できません。

補足 [ページサイズ] プルダウンメニューは、ファイルフォーマット変換サービスの設定内容に応じて、表示される数値が異なります。

5. [表示画像選択] プルダウンメニューから、表示画像を選択します。

- 6. [解像度] プルダウンメニューから、解像度を選択します。解像度の単位は、「dpi」です。
- 7. [スケール] プルダウンメニューから、スケールを選択します。スケールの単位は、「%」です。
- 8. [画質] プルダウンメニューから、表示画像の解像度を選択します。ほかのページサイズや、ほかのコン テントタイプについて設定する場合は、手順2から操作を繰り返します。
- 9. [適用] をクリックします。

コンテントタイプのページサイズを新たに追加した場合は[作成]をクリックします。 コンテント表示方法が設定され、[コンテント]ページに戻ります。

# 2.6.4 インデックスの表示方法を設定する

ここでは、インデックスを表示する場合の画像の変換方法を指定する手順を説明します。

# [インデックス] ページの構成

[インデックス]ページでは、インデックスの表示形式を設定できます。

[テンプレート編集] - [表示設定] タブのページで、[インデックス] をクリックすると、[インデックス] ページが表示されます。

(コンテント )	マルチコンテント	インデックス	マルチインデックス	インフレーム
				適用 リセット
名前	値			
画像変換方法	;: TIFF変換	~		
解像度:	72 🗸 0	lp i		
スケール:	100 🗸 9	6		
画質:	標準、	1		
				適用 リセット

図:[インデックス] ページ

参照 [テンプレート編集] ページについては、「[テンプレート編集] ページの構成|(P.23) を参照してください。

[インデックス]ページの各項目について説明します。

項目	説明
- [画像変換方法]プルダウンメ ニュー	インデックス画像の変換方法を選択します。
[解像度]プルダウンメニュー	表示する画像の解像度を選択します。
[スケール] プルダウンメニュー	表示する画像のスケールを選択します。
[画質]プルダウンメニュー	表示する画像の画質を選択します。
[適用]	クリックすると、インデックスの表示形式が設定されます。
[リセット]	クリックすると、設定を編集前の状態に戻します。

補足 ファイルフォーマット変換サービスに設定されていないコンテントタイプでは、プライマリコンテントを変換できません。そのため、無変換以外の画像変換方法では、[プリント画像] しか表示されません。

インデックスの表示方法を設定する手順

- 1. [画像変換方法] プルダウンメニューから、画像の変換方法を選択します。
  - 注記 · [画像変換方法] を [TIFF 変換] に設定した場合、 [画質] は設定できません。
    - ・[画像変換方法]を[DocuWorks 変換]または[無変換]に設定した場合、[画質]、[解像度]、 [スケール]は設定できません。
- 2. [解像度] プルダウンメニューから、解像度を選択します。解像度の単位は、「dpi」です。
- 3. [スケール] プルダウンメニューから、スケールを選択します。スケールの単位は、「%」です。
- 4. [画質] プルダウンメニューから、表示画像の解像度を選択します。
- 5. [適用] をクリックします。

設定したインデックス表示設定が適用されます。

注記 [コントロールビュー]を使用している場合に、表示するドキュメントに対して取得権、印刷権のどち らかがないときは、画像変換方法が自動的に DocuWorks 変換または PDF 変換になります。[コント ロールビュー]を有効にしていても、ドキュメントに対して取得権と印刷権双方を持っているときや、 [コントロールビュー]を使用していないときは、手順<u>1</u>で選択した画像変換方法で変換されます。

参照 コントロールビューの詳細については、「2.6.2 共通の設定をする」(P.27)を参照してください。

# 2.6.5 マルチコンテントの表示方法を設定する

ドキュメントを複数選択して表示することを、マルチコンテント表示といいます。 ここでは、マルチコンテントを表示する場合の画像の変換方法と表示ページを設定する手順を説明します。

# [マルチコンテント] ページの構成

[マルチコンテント]ページでは、マルチコンテントの表示形式を設定できます。

[テンプレート編集] - [表示設定] タブのページで、[マルチコンテント] をクリックすると、[マルチコン テント] ページが表示されます。

コンテント	マルチコ	ンテント	インデックス	マルチインデ・	ックス	インフレーム	
						適用	リセット
名前		値					
画像変換方	法:		ザイメージ変換	◯TFF変換	ODo	cuWorks変換	1
表示画像選	択:	・	マリ画像 〇ブ	リント画像			
表示対象ペ	ージ:	○先頭^	ミージ ⑧全べ	ージ			
解像度:		72 🗸	dpi				
スケール:		100 🗸	%				
画質:		標準	~				
						適用	リセット

図:[マルチコンテント] ページ

参照 [テンプレート編集] ページについては、「[テンプレート編集] ページの構成|(P.23) を参照してください。

[マルチコンテント]ページの各項目について説明します。

項目	説明
[画像変換方法] エリア	マルチインデックス画像の変換方法をラジオボタンで選択します。
[表示画像選択] エリア	表示する画像として、ラジオボタンを選択します。
[表示対象ページ]エリア	表示するページとして、ラジオボタンを選択します。
[解像度]プルダウンメニュー	表示する画像の解像度を選択します。
[スケール] プルダウンメニュー	表示する画像のスケールを選択します。
[画質] プルダウンメニュー	表示する画像の画質を選択します。
[適用]	クリックすると、マルチコンテントの表示形式が設定されます。
[リセット]	クリックすると、設定を編集前の状態に戻します。

# マルチコンテントの表示方法を設定する手順

- 1. [画像変換方法] エリアで、画像の変換方法を選択します。
  - 注記・「コントロールビュー」を使用する設定の場合に、表示するドキュメントに対して取得権、印刷権の どちらかがないときは、「画像変換方法」エリアでの選択にかかわらず、画像変換方法が自動的に DocuWorks 変換になります。
     [コントロールビュー]を使用する設定の場合でも、ドキュメントに対して取得権と印刷権双方を 持っているときや、「コントロールビュー」を使用しない設定の場合は、手順1で選択した画像変換 方法で変換されます。
    - ・[画像変換方法]に[DocuWorks 変換]を指定した場合、[表示対象ページ]の指定にかかわらず、 常にすべてのページが変換された DocuWorks ファイルが表示されます。
    - ・「画像変換方法」を「TIFF 変換」に設定した場合、「画質」は設定できません。

参照 コントロールビューの詳細については、「2.6.2 共通の設定をする」(P.27)を参照してください。

- 2. [表示画像選択] エリアで、表示画像を選択します。
- 3. [表示対象ページ] エリアで、表示対象ページを選択します。

注記 [先頭ページ] を選択すると、表示対象のドキュメントが複数ページのドキュメントでも、先頭ページ だけ表示されるようになります。

- 4. [解像度] プルダウンメニューから、解像度を選択します。解像度の単位は、「dpi」です。
- 5. [スケール] プルダウンメニューから、スケールを選択します。スケールの単位は、「%」です。
- 6. [画質] プルダウンメニューから、表示画像の解像度を選択します。
- **7.** [適用] をクリックします。 設定したマルチコンテント表示設定が適用されます。

# 2.6.6 マルチインデックスの表示方法を設定する

ドキュメントを複数選択して表示することを、マルチインデックス表示といいます。ここでは、マルチイン デックスを表示する場合の画像の変換方法と表示ページを設定する手順を説明します。

# [マルチインデックス] ページの構成

[マルチインデックス] ページでは、マルチインデックスの表示形式を設定できます。 [テンプレート編集] – [表示設定] タブのページで、[マルチインデックス] をクリックすると、[マルチイ ンデックス] ページが表示されます。

コンテント マルチコ	ンテント インデックス	マルチインデッ	クスロインフレー	-4
			適月	月 リセット
名前	値			
画像変換方法:	○ブラウザイメージ変換	●TIFF変換	○DocuWorks変	換
表示対象ページ:	○先頭ベージ ◉全べ	ージ		
解像度:	72 🗸 dpi			
スケール:	100 🗸 %			
画質:	標準 🖌			
			適月	月 リセット

図:[マルチインデックス] ページ

参照 [テンプレート編集] ページについては、「<u>「テンプレートー覧] ページの構成|(P.22)</u>を参照してください。

[マルチインデックス]ページの各項目について説明します。

項目	説明
[画像変換方法] エリア	マルチインデックス画像の変換方法をラジオボタンで選択します。
[表示対象ページ] エリア	表示するページとして、ラジオボタンを選択します。
[解像度]プルダウンメニュー	表示する画像の解像度を選択します。
[スケール] プルダウンメニュー	表示する画像のスケールを選択します。
[画質] プルダウンメニュー	表示する画像の画質を選択します。
[適用]	クリックすると、マルチインデックスの表示形式が設定されます。
[リセット]	クリックすると、設定を編集前の状態に戻します。

### マルチインデックスの表示方法を設定する手順

- 1. [画像変換方法] エリアで、画像の変換方法を選択します。
  - 注記・「コントロールビュー」を使用する設定の場合に、表示するドキュメントに対して取得権、印刷権の どちらかがないときは、「画像変換方法」エリアでの選択にかかわらず、画像変換方法が自動的に DocuWorks 変換になります。
     [コントロールビュー]を使用する設定の場合でも、ドキュメントに対して取得権と印刷権双方を 持っているときや、「コントロールビュー」を使用しない設定の場合は、手順1で選択した画像変換 方法で変換されます。
     「画像変換方法」に「DocuWorks 変換」を指定した提合、「表示対象ページ」の指定にかかわらず
    - ・ [画像変換方法] に [DocuWorks 変換] を指定した場合、 [表示対象ページ] の指定にかかわらず、 常にすべてのページが変換された DocuWorks ファイルが表示されます。
    - ・「画像変換方法」を「TIFF 変換」に設定した場合、「画質」は設定できません。

参照 コントロールビューの詳細については、「2.6.2 共通の設定をする」(P.27)を参照してください。

- 2. [表示対象ページ] エリアで、表示対象ページを選択します。
   注記 [先頭ページ] を選択すると、表示対象のドキュメントが複数ページのドキュメントでも、先頭ページ だけ表示されるようになります。
- **3.** [解像度] プルダウンメニューから、解像度を選択します。解像度の単位は、「dpi」です。
- 4. [スケール] プルダウンメニューから、スケールを選択します。スケールの単位は、「%」です。
- 5. [画質] プルダウンメニューから、表示画像の解像度を選択します。
- **6.** [適用] をクリックします。 設定したマルチインデックス表示設定が適用されます。

# 2.6.7 インフレームの表示方法を設定する

ここでは、外部アプリケーションからナビゲーションモードとして起動された場合の、画像変換方法や解像度 などを、プライマリ画像やプリント画像など画像の種類ごとに設定する手順を説明します。

# [インフレーム] ページの構成

[インフレーム]ページでは、インフレームの表示形式を設定できます。

[テンプレート編集] - [表示設定] タブのページで、[インフレーム] をクリックすると、[インフレーム] ページが表示されます。

コンテント	マルチコ	ンテント	インデックス	マルチインデックス	インフレーム	
					適用	リセット
名前		値				]
画像変換方	法:	○無変	奧 ○TIFF変換	. ○DocuWorks変換	◉ JPEG変換	]
プライマリ画	i <b>(\$</b> :	解像度 スケール 画質:	: 72 V レ: 100 V 標準	] dpi ] %		
プリント画像	::	解像度 スケール 画質:	: 72 V レ: 100 V 標準	] dpi ] %		
インデックス	画像:	解像度 スケー) 画質:	: 72 ¥ レ: 100 ¥ 標準	] dpi ] %		
部分画像:		解像度 スケール 画質:	: 72 V レ: 100 V 標準	] dpi ] %		
					適用	リセット

図:[インフレーム] ページ

参照 [テンプレート編集] ページについては、「[テンプレート編集] ページの構成|(P.23) を参照してください。

[インフレーム] ページの各項目について説明します。

項目	説明
[画像変換方法] エリア	インフレームの変換方法をラジオボタンで選択します。
[表示画像ごとの変換パ ラメータ] エリア	表示画像の種類(プライマリ画像、プリント画像、インデックス画像、部分画 像)ごとに、[解像度]、[スケール]、[画質]を設定します。
	・ <b>[解像度] プルダウンメニュー</b> 表示される画像の解像度を選択します。
	・ <b>[スケール] プルダウンメニュー</b> 表示される画像のスケールを選択します。
	・[画質] プルダウンメニュー 表示される画像の画質を選択します。
[適用]	クリックすると、インフレームの表示形式が設定されます。
[リセット]	クリックすると、設定を編集前の状態に戻します。

# インフレームの表示方法を設定する手順

- **1。**[画像変換方法] エリアで、画像の変換方法を選択します。
  - 注記・「コントロールビュー」を使用する設定の場合に、表示するドキュメントに対して取得権、印刷権の どちらかがないときは、「画像変換方法」エリアでの選択にかかわらず、画像変換方法が自動的に DocuWorks 変換になります。
     [コントロールビュー]を使用する設定の場合でも、ドキュメントに対して取得権と印刷権双方を 持っているときや、「コントロールビュー」を使用しない設定の場合は、手順1で選択した画像変換 方法で変換されます。
    - ・「画像変換方法」を「TIFF変換」に設定した場合、「画質」は設定できません。
    - ・ [画像変換方法] を [DocuWorks 変換] または [無変換] に設定した場合、 [画質]、 [解像度]、
       [スケール] は設定できません。

参照 コントロールビューの詳細については、「2.6.2 共通の設定をする」(P.27)を参照してください。

- **2.** [表示画像ごとの変換パラメータ] で、表示画像([プライマリ画像]、[プリント画像]、[インデックス 画像]、[部分画像]) ごとの [解像度]、[スケール]、[画質] をプルダウンメニューから選択します。
- (1) [解像度] プルダウンメニューから、解像度を選択します。解像度の単位は、「dpi」です。
- (2) [スケール] プルダウンメニューから、スケールを選択します。スケールの単位は、「%」です。
- (3) [画質] プルダウンメニューから、表示画像の解像度を選択します。
- **3.** [適用] をクリックします。 設定したインフレーム表示設定が適用されます。

# 2.6.8 スタンプを設定する

ここでは、画像にスタンプを押す場合のスタンプの種類やスタンプの位置などを設定する手順を説明します。

### [テンプレート編集] – [スタンプ] タブのページの構成

[テンプレート編集] – [スタンプ] タブのページでは、スタンプ設定を新規作成、削除できます。 [テンプレート編集] ページで、[スタンプ] タブをクリックすると、[テンプレート編集] – [スタンプ] タ ブのページが表示されます。

共通設定 表示設定 スタンブ					
● 作成					
レイヤー	説明	操作			
0	no explanation	∥∿∖			
0	マル秘	∥磕╳			

図:[テンプレート編集] - [スタンプ] タブのページ

参照 [テンプレート編集] ページについては、「[テンプレート編集] ページの構成|(P.23) を参照してください。

#### [テンプレート編集] – [スタンプ] タブのページの各項目について説明します。

項目	説明
[コントロールビュー 利用時の変換先フォー マット] エリア	コントロールビューを利用した場合に変換するフォーマットを、ラジオボタンで 選択します。
[作成]	クリックすると、新しいテンプレートを作成するための画面が表示されます。
	参照 スタンプの作成手順については、「 <u>スタンプを設定する手順」(P.42)</u> を参照し てください。

項目	説明
[スタンプ設定一覧]	作成されているスタンプ設定の一覧が表示されます。一覧には、スタンプを押印 するレイヤー、スタンプ設定の説明、および操作用のボタンが表示されます。
❷ ([編集])	クリックすると、[スタンプ設定]ページでスタンプ設定の内容を修正できます。
	参照 [スタンプ設定] ページについては、「[スタンプ設定] ページの構成 (P.40) を参照してください。
๋ ([⊐ピ−])	クリックすると、スタンプ設定がコピーされて、新しいスタンプ設定を作成する ための画面が表示されます。
	参照 スタンプの作成手順については、「 <u>スタンプを設定する手順」(P.42)</u> を参照し てください。
× ([削除])	クリックすると、スタンプ設定が削除されます。

# [スタンプ設定] ページの構成

[スタンプ設定]ページでは、スタンプを設定できます。

[テンプレート編集] – [スタンプ] タブのページで、 🔂 ([コピー])または [作成] をクリックすると、 [スタンプ設定] ページが表示されます。

共通設定	表示設定 スタンプ
	🥒 適用 🤇 リセット
名前	値
説明(必須):	no explanation
レイヤー(0~999)(必須):	1
押印对象:	▼ブライマリ画像 ▼ブリント画像 ▼インデックス画像 □部分画像
条件式:	<ul> <li>ANDで評価 ●ORで評価</li> <li>✓コントロールビューを考慮する</li> <li>✓加を考慮する</li> <li>✓版管理されていないとき ✓最新版のとき ✓旧版のとき</li> <li>✓訂を考慮する</li> <li>✓新訂のとき ✓旧訂のとき ✓校訂のとき</li> <li>– 状態を考慮する</li> </ul>
イメージ:	<ul> <li>■文字列スタンプ</li> <li>default</li> <li>フォントサイズ(1~999pt)(必須): 20 pt</li> <li>色: 000000</li> <li>-□イメージスタンプ</li> </ul>
押印位置:	<ul> <li>基点: 中央点 ✓</li> <li>よこ方向(-100~100mm)(必須): 10 mm</li> <li>たて方向(-100~100mm)(必須): -10 mm</li> </ul>
重ね合わせ処理:	モード: ●透過モード ○上書きモード ○乗算モード 透過色: 白 ✔

図:[スタンプ設定] ページ

参照 [テンプレート編集] - [スタンプ] タブのページについては、「[テンプレート編集] - [スタンプ] タブの ページの構成|(P.39)を参照してください。 [スタンプ設定]ページの各項目について説明します。

項目	説明
[説明 (必須)] エリア	スタンプ設定の説明を入力します。
[レイヤー(0~999) (必須)] エリア	スタンプを押印するレイヤーを入力します。
[押印対象] エリア	スタンプを押す画像を設定します。チェックボックスにチェックマークを付け ます。
[条件式] エリア	スタンプ設定を使用する条件(コントロールビュー条件、版条件、訂条件、状 態条件)を設定します。
	・条件評価方法のラジオボタン スタンプ設定を使用する条件(コントロールビュー条件、版条件、訂条件、 状態条件)の評価方法を、ラジオボタンから選択します。
	・ <b>コントロールビュー条件</b> コントロールビュー条件をチェックボックスで設定します。
	・ <b>版条件</b> 版条件をチェックボックスで設定します。
	・ <b>訂条件</b> 訂条件をチェックボックスで設定します。
	・ <b>状態条件</b> 状態条件をチェックボックスで設定します。
[イメージ] エリア	スタンプの種類を文字列にするか、画像にするかを設定します。
	<ul> <li>・スタンプの種類を文字列にする場合の設定項目         <ul> <li>[文字列スタンプ]または[イメージスタンプ]のどちらかを選択することで、スタンプの種類を設定します。</li> <li>スタンプを文字列とした場合は、[文字列スタンプ]の下の入力フィールドに文字列を入力し、[フォントサイズ (1~999 pt)(必須)]に文字の大きさを、[色]にスタンプの色を入力します。</li> </ul> </li> </ul>
	<ul> <li>・スタンプの種類を画像にする場合の設定項目         <ul> <li>[文字列スタンプ]または[イメージスタンプ]のどちらかを選択することで、スタンプの種類を設定します。</li></ul></li></ul>
[押印位置] エリア	スタンプを押す位置を設定します。 [基点] プルダウンメニューで基点を選択してから、[たて方向(-100〜100 mm)(必須)] および [よこ方向(-100〜100 mm)(必須)] に座標を入力 することで、スタンプを押す位置を設定します。
[重ね合わせ処理] エリ ア	スタンプの重ね合わせ処理を設定します。 [透過モード]、[上書きモード]、または [乗算モード] のいずれかを選択する ことで、スタンプの合成モードを設定します。 [透過モード] を選択した場合は、[透過色] プルダウンメニューから、スタン プの透過色を選択します。
[適用]	クリックすると、スタンプが設定され、[テンプレート編集] – [スタンプ] タ ブのページに戻ります。
[リセット]	クリックすると、設定を編集前の状態に戻します。
[戻る]	クリックすると、設定した内容を破棄して[テンプレート編集]-[スタンプ] タブのページに戻ります。

## スタンプを設定する手順

- 1. 設定内容に応じて、次のいずれかの操作を行います。
- ◆ すでに設定されているスタンプ設定を変更する場合
- (1) 変更するスタンプ設定の右側にある (([編集]) をクリックします。 [スタンプ設定] ページが表示されます。
- ◆ すでに設定されているスタンプ設定をコピーして作成する場合
- (1) コピーするスタンプ設定の右側にある①([コピー])をクリックします。 [スタンプ設定]ページが表示されます。

#### ◆ スタンプ設定を新規に作成する場合

- **(1)[作成]をクリックします**。 [スタンプ設定]ページが表示されます。
- 2. [説明(必須)] エリアにスタンプ設定の説明を入力します。
- 3. [レイヤー(0~999)(必須)] エリアにスタンプを押すレイヤーを入力します。
- **4.** [押印対象] エリアで、スタンプの押印対象とする画像のチェックボックスにチェックマークを付けます。
- 5. [条件式] エリアで、スタンプ設定を使用する条件を設定します。
- (1)次のラジオボタンで2~5の各条件の評価方法を選択します。
  - ・[AND で評価]
     <u>2</u>~<u>5</u>の各条件をすべて満たす場合にスタンプ設定を使用します。
  - ・[OR で評価]
     <u>2</u>~<u>5</u>の各条件のうちいずれか1つでも満たす場合にスタンプ設定を使用します。
- (2) コントロールビュー条件を次のチェックボックスで設定します。
  - ・[コントロールビューを考慮する] チェックマークを外すと、コントロールビューの状態によらず、スタンプ設定を使用します。
  - ・[コントロールビューが使われているとき]
     チェックマークを付けると、コントロールビューの場合にスタンプ設定を使用します。
  - ・[コントロールビューが使われてないとき] チェックマークを付けると、コントロールビューでない場合にスタンプ設定を使用します。
- (3)版条件を次のチェックボックスで設定します。
  - ・[版を考慮する] チェックマークを外すと、版の状態によらず、スタンプ設定を使用します。
     ・[版管理されていないとき] チェックマークを付けると、版管理されていない場合にスタンプ設定を使用します。
     ・[最新版のとき]
  - チェックマークを付けると、最新版の場合にスタンプ設定を使用します。
  - ・[旧版のとき] チェックマークを付けると、旧版の場合にスタンプ設定を使用します。

(4) 訂条件を次のチェックボックスで設定します。

- ・[訂を考慮する]
   チェックマークを外すと、訂の状態によらず、スタンプ設定を使用します。
- 「新訂のとき」
   チェックマークを付けると、新訂の場合にスタンプ設定を使用します。
- ・[旧訂のとき] チェックマークを付けると、旧訂の場合にスタンプ設定を使用します。
- ・[校訂のとき] チェックマークを付けると、校訂の場合にスタンプ設定を使用します。
- (5) 状態条件を次のチェックボックスで設定します。
  - ・[状態を考慮する] チェックマークを外すと、状態定義で選択した状態属性によらず、スタンプ設定を使用します。
  - ・状態名のチェックボックス
     チェックマークを付けると、チェックした状態名の状態属性の場合にスタンプ設定を使用します。
- 6. 文字列のスタンプを押すか、画像のスタンプを押すかを設定します。
  - 注記 画像をスタンプする場合は、対象の画像ファイル(PNG ファイル)をスタンプフォルダー (「{ArcSuite のユーザーホームフォルダー} ¥Service¥data¥View¥stamp」)に入れておく必要があ ります。

#### ◆ 文字列のスタンプを押す場合

- (1) [文字列スタンプ] にチェックマークを付けます。
- (2) [文字列スタンプ]の下の入力フィールドに、スタンプとして表示する文字列を入力します。 補足 文字列には、変数を使用できます。変数を使用する場合は、変数を「\$」で囲んでください。

- (3) [フォントサイズ(1~999pt)(必須)] にスタンプ文字列のフォントサイズを入力します。1~ 999pt の範囲で入力してください。
- (4) [色] にスタンプ文字列の色を設定します。RGB([Red]、[Green]、[Blue])の指定方法で、
   000000 から ffffff までの範囲で、16 進数で表記された値を入力してください。
  - 例:赤を指定:ff0000、緑を指定:00ff00、青を指定:0000ff

注記 スタンプする画像の色数が 24 ビットカラー(フルカラー)より少ない場合、文字列の [色] に指定さ れた色が減色されることがあります。 その場合は、画像の色に合わせて、文字列の色を指定し直してください。 たとえば、白い画像にスタンプした薄い灰色「dcdcdc」が白になってしまう場合、「808080」など の黒(000000)に近い値を指定します。 黒い画像にスタンプした文字列の濃い灰色「808080」が黒になってしまう場合は、「f8f8ff」などの 白(ffffff)に近い値を指定します。

#### ◆ 画像のスタンプを押す場合

- (1) [イメージスタンプ] にチェックマークを付けます。
- (2) [イメージスタンプ] の下のプルダウンメニューから、スタンプする画像ファイルを選択します。
- 7. スタンプを押す位置を指定します。

紙面上の基点を設定してから、基点からのよこ方向の座標およびたて方向の座標によって位置を指定し ます。

[基点] プルダウンメニューから、基点を選択します。

よこの座標およびたての座標は、[よこ方向(-100~100 mm)(必須)]、および[たて方向(-100~100 mm)(必須)]に入力します。

補足 {ArcSuite のユーザーホームフォルダー} は、ArcSuite の設定、ログ、データを配置する基準となる ディレクトリーです。インストールするときに指定します。初期値は、「C:¥ArcSuite」です。

参照 スタンプに指定する文字列の詳細については<u>3 スタンプに指定する文字列について|(P.53)</u>を参照 してください。

- 8. スタンプが、画像の上に重なった場合の処理を選択します。
- (1) [重ね合わせ処理] エリアで、次のいずれかのラジオボタンを選択します。
  - ・[透過モード] 指定した色の下にある画像の色が浮き出ます。
  - 「上書きモード」
     スタンプが、透過されずに重なります。
  - ・[乗算モード] 画像の基本色を合成色で掛け合わせます。重ね合わせた結果、色は暗くなります。
    - 注記 画像変換方法が [DocuWorks 変換] の場合、スタンプの合成モードの設定として [透過モード] を 選択しても、スタンプは透過されません。 スタンプする対象となる画像の色空間が YCbCr の場合、インデックス画像に乗算モードでスタンプす る設定にして表示すると、スタンプの領域が緑系の色で表示されます。
    - 参照 スタンプの合成処理は、ファイルフォーマット変換サービスにより実現しています。
- (2) [透過モード]を選択した場合にだけ、[透過色] プルダウンメニューから、透過色を選択します。 透過色には、[黒] または[白]を選択できます。
- **9.** [適用] をクリックします。 スタンプ設定が、適用されます。
- 10.[確認] ダイアログボックスの [OK] をクリックします。 [テンプレート編集] – [スタンプ] タブのページに戻ります。 注記 合成されるスタンプの数が多い場合、表示されるまでに時間がかかることがあります。

# スタンプを削除する手順

- 1. 削除するスタンプ設定の右側にある 🗙 ([削除]) をクリックします。
- [OK] をクリックします。
   選択したスタンプが削除されます。

# 2.7 状態定義を変更する

ここでは、スタンプ設定を使用する条件の1つである状態定義を変更する手順を説明します。

#### [状態設定] ページの構成

[状態設定] ページでは、スタンプ設定を使用する条件の1つである状態定義を設定できます。 [表示アプリケーション管理] で[状態設定] リンクをクリックすると、[状態設定] ページが表示されます。

《 状態設定			
			設定 リセット
すべてのATOM アーカイブ保存中 アーカイブ保存あり コラボスペースメッセージ内容 コラボスペースURL 圧縮形式 イメージ長 イメージ幅 水平解像度	<ul> <li>→追加</li> <li>←削除</li> </ul>	<u>状態を表すATOM</u> 編集可能 固定 廃棄	
			設定 リセット

図:[状態設定] ページ

[状態設定] ページの各項目について説明します。

項目	説明
[すべてのATOM] リス ト	追加されていないすべての条件が表示されます。
[状態を表すATOM] リ スト	スタンプ設定に使用する条件を追加します。
[追加]	クリックすると、[すべてのATOM]リストで選択した条件が、[状態を表す ATOM]リストに追加されます。
[削除]	クリックすると、[状態を表すATOM] リストで選択した条件が削除されます。
[設定]	クリックすると、[状態を表すATOM] に追加した状態をスタンプ設定を使用す る条件として設定します。
[リセット]	クリックすると、設定を編集前の状態に戻します。

## 状態定義を変更する手順

- **1.** [すべての ATOM] の一覧から、状態属性が取る可能性のある値を選択します。
- **2.** [追加] をクリックします。 [すべての ATOM] リストで選択した条件が、[状態を表す ATOM] リストに追加されます。
- **3.** [設定] をクリックします。 状態定義が適用されます。

# 2.8 アプリケーションの基本動作を設定する

表示アプリケーションの基本動作を設定できます。

ここでは、表示アプリケーションの基本動作の設定手順を説明します。

# [アプリケーション基本動作設定] ページの構成

[アプリケーション基本動作設定]ページでは、表示アプリケーションの基本動作を設定できます。 [表示アプリケーション管理]で、[アプリケーション基本動作設定]リンクをクリックすると、[アプリケー ション基本動作設定]ページが表示されます。

🕄 アプリケーション基本動作	設定	
		設定 リセット
名前	設定	
セッションタイムアウト時間(1~30)(必須):	5 分	
表示モード:	● 図面モード ○ 写真モード ○ 標準モード	
表示画像の最大サイズ(1~500)(必須):	5 MB	
ファイル名のエンコード:	□ ファイル名をURLエンコードする	
DocuWorksに変換される文書の表示:	○全て変換してから表示 ⑧変換したページ分を先に表示	
コントロールビュー利用時の変換先フォーマット:	●DocuWorks ○PDF	
		設定 リセット

図:[アプリケーション基本動作設定] ページ

項目	説明
[セッションタイムアウト 時間(1~30)(必須)]	表示アプリケーションのセッションタイムアウト時間を分単位で入力しま す。1~30の範囲で入力してください。ただし、ログインサーバーのタイム アウト時間が30分以下に設定されている場合、1分~ログインサーバーのタ イムアウト時間の範囲になります。
[表示モード]エリア	デフォルトの画像変換モードを、ラジオボタンで選択します。
[表示画像の最大サイズ (1~500)(必須)]	表示する画像の最大サイズをMB単位で入力します。1~500の範囲で入力で きます。
[ファイル名のエンコード] のチェックボックス	表示アプリケーションが生成するURL内にファイル名をURLエンコードして 含める場合にチェックボックスにチェックマークを付けます。
[DocuWorksに変換される 文書の表示] エリア	DocuWorksファイルに変換される文書の表示方法をラジオボタンで選択し ます。
[設定]	クリックすると、表示アプリケーションの基本動作が設定されます。
[リセット]	クリックすると、設定を編集前の状態に戻します。

[アプリケーション基本動作設定]ページの各項目について説明します。

#### アプリケーションの基本動作を設定する手順

- [コントロールビュー利用時の変換先フォーマット]エリアで、コントロールビューを利用した場合に変換するフォーマットを選択します。
- [セッションタイムアウト時間(1~30)(必須)]に、表示アプリケーションのセッションタイムアウト時間を分単位で入力します。1~30の範囲で入力します。

補足 ログインサーバーのタイムアウト時間が 30 分以下に設定されている場合、1 分からログインサーバー のタイムアウト時間の範囲になります。

- 3. [表示モード] エリアで、デフォルトの画像変換モードを選択します。
- **4.** [表示画像の最大サイズ(1~500)(必須)] に、表示する画像の最大サイズを入力します。1~500 の範囲で入力します。
- 5. 表示アプリケーションが生成する URL 内にファイル名を URL エンコードして含める場合は、[ファイル名を URL エンコードする] にチェックマークを付けます。
- **6.** [DocuWorks に変換される文書の表示] エリアで、DocuWorks ファイルに変換される文書の表示方法を選択します。

補足次の条件をどちらも満たす場合に〔変換したページ分を先に表示〕の設定が有効となります。

- ・変換元の文書が、次のコンテントタイプであること
  - application/msword
  - -application/vnd.ms-excel
  - -application/vnd.ms-powerpoint
  - -application/vnd.ms-word.document.macroEnabled.12
  - -application/vnd.ms-excel.sheet.macroEnabled.12
  - -application/vnd.ms-powerpoint.presentation.macroEnabled.12
  - application/vnd.openxmlformats-officedocument.presentationml.presentation
  - application/vnd.openxmlformats-officedocument.spreadsheetml.sheet
  - application/vnd.openxmlformats-officedocument.wordprocessingml.document - application/pdf
- ・文書をコントロールビューで表示する場合、または [DocuWorks 変換] で変換した文書を、コンテント表示、インデックス表示、またはインフレーム表示で表示する場合

#### 7. [設定] をクリックします。

表示アプリケーションの基本動作が設定されます。

# 2.9 USER\_AGENT を設定する

取得権はないが表示権があるドキュメントを表示するためのUSER\_AGENTを追加、削除できます。ここでは、 USER\_AGENTを設定する手順を説明します。

# [USER\_AGENT 設定] ページの構成

[USER\_AGENT設定] ページでは、取得権はないが表示権があるドキュメントを表示するための USER\_AGENTを追加できます。

[表示アプリケーション管理] で、[USER\_AGENT 設定] リンクをクリックすると、[USER\_AGENT 設定] ページが表示されます。

<ul><li>3 USER_AGENT設定</li></ul>	
セキュアビュー時にコンテント取得権のないコンテントを表示することが可能なUSER_AGENTを追加します。 初期状態でDocuWorks60.2以降は可能なUSER_AGENTとなります。	
	設定リセット
初期設定	
「DacuWorks Viewer Control/6.0.2」以降 「DacuWorks Viewer Light Control/6.0.2」以降	
追加したUSER_AGENT	
──────────────────────	
(/i/)	
追加	
	設定 リセット

図:[USER\_AGENT 設定] ページ

#### [USER\_AGENT設定] ページの各項目について説明します。

項目	説明
[初期設定]エリア	登録されているUSER_AGENTが表示されます。
[追加した USER_AGENT] のリス ト	追加したUSER_AGENTが、一覧で表示されます。
[削除]	クリックすると、[追加したUSER_AGENT]のリストで選択した USER_AGENTをリストから削除します。
追加するUSER_AGENT の入力フィールド	追加するUSER_AGENTを入力します。
[追加]	追加するUSER_AGENTの入力フィールドに入力したUSER_AGENTを、[追 加したUSER_AGENT]のリストに追加します。
[設定]	クリックすると、USER_AGENTが設定されます。
[リセット]	クリックすると、設定を編集前の状態に戻します。

# USER\_AGENT を新規に追加する手順

- 1. USER\_AGENT の文字列を追加する USER\_AGENT 入力フィールドに入力します。
- **2. [追加] をクリックします。** [追加した USER\_AGENT]の一覧に追加されます。
- **3.** [設定] をクリックします。 USER\_AGENT が設定されます。

# USER\_AGENT を削除する手順

- **1.** [追加した USER\_AGENT] の一覧で削除する USER\_AGENT を選択します。
- 2. [削除] をクリックします。
- **3.** [設定] をクリックします。 [追加した USER\_AGENT]の一覧から削除されます。

# 2.10 ログの出力レベルを設定する

表示アプリケーションにおけるログの出力レベルを設定できます。 表示アプリケーションで記録するログは次の4種類です。

- アカウントログ
   表示アプリケーションが管理するオブジェクトに対する操作内容を記録します。
- ・セッションログ セッションの確立と終了を記録します。
- ・システムログ エラー情報、管理操作、運用上の解析情報を記録します。
- ・トレースログ 開発者用のデバッグ情報を記録します。
- ここでは、ログの出力レベルを設定する手順の概要を説明します。

# [ログ設定] ページの構成

[ログ設定]ページでは、表示アプリケーションにおけるログの出力レベルを設定できます。 [表示アプリケーション管理]で、[ログ設定]リンクをクリックすると、[ログ設定]ページが表示されます。

									設定	リセット
名前	設定									
アカウントログ:	OOFF	OFATAL	OERROR	OWARN	● INFO	ODEBUG	OALL	]		
セッションログ:	OOFF	OFATAL		OWARN	$\odot\mathrm{INFO}$	ODEBUG	OALL			
システムログ:	OOFF	OFATAL	OERROR	⊖ WARN	● INFO	ODEBUG	OALL			
トレースログ:	● OFF	OFATAL	OERROR	OWARN	$\bigcirc$ INFO	ODEBUG	OALL			
									設定	) ประห

図:[ログ設定] ページ

[ログ設定] ページの各項目について説明します。

項目	説明
[名前]	出力レベルを設定するログ名が表示されます。
[設定]	ログの種類(アカウントログ、セッションログ、システムログ、トレースログ)ご とに出力レベルをラジオボタンで選択します。 ・OFF ログを記録しません。 ・FATAL FATAL レベルの情報を記録します。 ・ERROR FATAL および ERROR レベルの情報を記録します。 ・WARN FATAL、ERROR、および WARN レベルの情報を記録します。 ・INFO FATAL、ERROR、WARN、および INFO レベルの情報を記録します。 ・DEBUG FATAL、ERROR、WARN、INFO、および DEBUG レベルの情報を記録しま す。 ・ALL FATAL、ERROR、WARN、INFO、DEBUG レベルの情報、および取得できる すべての情報を記録します。
[設定]	クリックすると、ログの出力レベルが設定されます。
[リセット]	クリックすると、設定を編集前の状態に戻します。

# ログの出力レベルを設定する手順

- **1.** ログの種類(アカウントログ、セッションログ、システムログ、トレースログ)ごとに出力レベルをラジオボタンで選択します。
- **2.** [設定] をクリックします。 ログの出力レベルが設定されます。

# 2.11 管理ツールを終了する

ここでは、管理ツールを終了する手順を説明します。

# 管理ツールを終了する手順

- **1.** 画面右上の ([ログアウト] アイコン) をクリックします。 ログアウトし、[ログイン] 画面に戻ります。
- **2.** Web ブラウザーの [×] をクリックします。 管理ツールが終了します。

# 3 スタンプに指定する文字列について

スタンプの記述について説明しています。

# 3.1 文字列展開の記述方法

# 埋め込み文字列スタンプ

スタンプ設定が文字列スタンプであった場合に、文字列にセッション情報を文字列化して埋め込む機能です。 埋め込み方式には次の方法があります。

・簡易文字列展開

指定されたセッション情報の値を単純に文字列化して埋め込む方法。

文字列中に「スタンプ \$ セッション情報 \$」のように「\$」でセッション情報名を囲むことで展開されます。

・式展開

式を埋め込み、式の結果を文字列化して埋め込む方法。

文字列中に「スタンプ \$[ 式 ]\$」のように「\$[」と「]\$」で式を囲むことにより展開されます。式中で セッション情報を参照する場合には「\$[\${ セッション情報 }]\$」のように記述します。評価された式が文 字列以外であれば、型に従った文字列変換された後、埋め込まれます。

### セッション情報

文字列スタンプに埋め込まれる情報はスタンプ実行時のセッション情報です。セッション情報は、上位コン ポーネントから渡され文字列スタンプ時に参照・展開されます。

表示アプリケーションで扱うセッション情報は次のとおりです。

・実行時ユーザーに付随する RMS 情報
 実行ユーザー、ユーザーが属するグループの情報など。
 ユーザー情報は「\_user:]。プリフィックスの後に rms 属性名を記述します。
 所属する全グループ情報は「\_groups:]。プリフィックスの後に rms 属性名を記述します。
 直接属するグループ(単一)の情報は「\_group:]。プリフィックスの後に rms 属性名を記述します(複数のグループに直接含まれている場合には、RMS が返す先頭のグループとなります)。

 ・スタンプ対象となるドキュメントの dRepository 情報 対象ドキュメントの属性値です。
 表現方法は dRepository の記述と同様で、ネームスペース+「:」(コロン) +属性名で属性を記述します。
 システム属性はネームスペースに「system」を指定します(システム属性の名前属性は [system:name])。

・実行サーバー情報 実行時時間だけ参照可能。 スタンプ処理実行単位の実行時間は「\_server:now」で指定します。スタンプ操作単位(アプリケーションによる実行呼び出し単位)による実行時間は「\_server:time」で指定します。前者はマルチスタンプを押した時に処理に時間がかかると異なる時間が1ドキュメントに合成される可能性があります。いずれも日時型の値を表します。

 ・実行クライアント情報 クライアント IP アドレスだけ参照可能。
 「\_client:ipaddress」で指定します。文字列型の値です。
 セッション情報で、スタンプに使用できないように制限される情報があります。表示アプリケーションでは次のものを制限します。

-\_user:userPassword

-\_user:passwordExpireDate

-\_user:userSMIMECertificate

これらのセッション情報、および制限情報は上位コンポーネントによりカスタマイズ可能です。

# 3.2 文字列展開について

#### スタンプで使う値の文字列について説明します。

# 型

値の型について説明します。

表:値の型

項目	説明
プリミティブ型	<ul> <li>javaで扱うプリミティブ型、もしくはそのラッパークラス型の文字列化</li> <li>Date 型</li> <li>セッション情報のロケールで、時刻を文字列化します。文字列化は</li> <li>java.text.DateFormat の長い形式 (LONG) で行います。</li> <li>その他</li> <li>toString() で出力される値そのものです。</li> </ul>
dRepository属 性型	<ul> <li>dRepositoryの型単位の文字列化</li> <li>AttrSet型は、単値の文字列化された文字列をセットとして連結します。</li> <li>Atom, Principal, UserRole 次の順序で文字列化します。</li> <li>1. 実行ユーザーのロケールの表示名</li> <li>2. 言語コード無しの表示名</li> <li>3. RMS エントリーの RDN</li> <li>Uri URI のラベルと値を、次のフォーマットで文字列にします。</li> <li>"[ラベル,値]"</li> <li>Binary, None 本コンポーネントでは文字列化対象外です。</li> <li>その他 その他のdRepository 型属性値はプリミティブ型と同じ処理を行います。</li> </ul>
RMS属性型	RMSの属性値は、次の例外を除きプリミティブ型と同じ。 ・複数の文字列値を持つ属性は、「多値の結合」の処理が行われます。 ・_groups で指定する複数のグループの属性では複数エントリー属性の結合の処理が行 われます。

# 値の連結

値を連結する場合の処理について説明します。

表:値の連結

項目	説明
多値の結合	dRository属性の多値や、RMS属性の多値、リスト、配列の値を連結するときに使用 されます。 多値の連結は", "(カンマ+半角スペース1つ)で行います。
セット型の結合	dRepository属性のセット型の値を連結するときに使用されます。 セット型の連結は", "(カンマ+半角スペース1つ)で行います。
複数エントリー属 性の結合	"_groups:"で開始される、実行ユーザーが含まれる複数のグループを対象にした場合のRMS属性の値を連結するときに使用されます。 複数エントリーの連結は","(カンマ+半角スペース1つ)で行います。

# 3.3 式の記述について

# オペランド

式のオペランドに使用できるのは、次の値のいずれかです。

- ・セッション情報 dRepository ドキュメント属性値 実行時ユーザー RMS 属性値 実行時ユーザーが属するグループの RMS 属性値 クライアントマシン情報 サーバーマシン情報
- ・定数
- ・式

#### ■ セッション情報

セッション情報の参照は、次の構文で記述します。 <属性値参照>::="\${" + <属性> + "}" <属性>::=<dRepositoryドキュメント属性> |<RMS属性> | < クライアントマシン情報> | <サーバーマシン情報> <dRepositoryドキュメント属性>::= <属性ID> <RMS属性>::= <RMS属性プリフィックス> + <RMS属性名> <クライアントマシン情報>::="\_client:" + <クライアントマシン情報名> <サーバーマシン情報>::="\_server:" + <サーバーマシン情報名> <属性ID>::= <ネームスペース>+ ":" + <name> <RMS属性プリフィックス>::= "\_user:" | "\_groups:" | "\_group:" <ネームスペース>::= string <name>::= string <RMS属性名>::= string <クライアントマシン情報名>::= string <サーバーマシン情報名>::= string

#### ■ 定数

定数として記述できるのは、文字列及び数値およびブール値です。日時、リソースを定数として用いるには、 組み込み関数を利用する必要があります。

文字列の定数は、ダブルクォートで囲むことによって表記します。

ただし、ダブルクオート自身(")とバックスラッシュ(¥)を記述するときには、¥でエスケープして記述しなければなりません。

数値は、直接表記します。

ブール値は、trueまたはfalseで表記します。

参照 組み込み関数の詳細については、「<u>組み込み関数」(P.58)</u>を参照してください。

◆ 記述例

文字列の例:"ABC" "文字列" "¥¥" 数値の例:10 13.5 19d ブール値の例:true false

# オペレータ

条件式のオペレータとして、次のものが使用できます。データ型によって適用できるオペレータが異なります。

	表	:比較演算才^	ペレータ	と対応す	っデ-	-夕型
--	---	---------	------	------	-----	-----

オペレータ	意味	数値	日時	文字列	ブール	URI	期間
>	より大きい	$\bigcirc$	0	0	×	×	0
<	より小さい	$\bigcirc$	0	0	×	×	0
>=	以上	$\bigcirc$	$\bigcirc$	0	×	×	0
<=	以下	0	0	0	×	×	0
==	等しい	$\bigcirc$	0	0	0	0	0
!=	等しくない	$\bigcirc$	$\bigcirc$	0	$\bigcirc$	$\bigcirc$	0
&&	かつ (AND)	×	×	×	0	×	×
	または (OR)	×	×	×	0	×	×
!	否定 (NOT)	×	×	×	0	×	×
^	XOR	×	×	×	0	×	×

比較演算、数値演算共に基本的には同じデータ型同士の演算にしか適用できませんが、次のような例外があります。比較演算の結果はブール値です。

・整数型と浮動小数型:数値演算、比較演算共に可能

・日時型:比較演算だけ可能

なお、数値型の値に関しては、次の演算を提供します。数値型以外のデータに用いたり、(0で割るなど)値 が定まらない演算を行ったときは、数値演算例外を発生します。数値演算の結果は整数型同士の演算ならば整 数型、それ以外の場合は浮動小数型となります。

また、文字列型の値に対しては+のオペレータを用いることができます。これは文字列の連結を意味しています。

表:数値演算オペレータ

オペレータ	意味
*	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
+	加算
-	減算
/	除算

式の評価順序を指定するため、括弧()を利用できます。

式の評価でエラーを起こした場合、式評価例外を発生します。

# 空値の扱い

属性値が未設定の値(空値)は、要素数0の値として扱われます。 空値を判定する際には、IsNull関数を使用します。 例:

IsNull(\${user:zuban})
 ユーザー属性「user:zuban」が未設定かどうかを判定する

# 多値の扱い

#### ■ 多値の表記方法

式の値として多値を表現する際には、List関数を使用します。 例:

- ・「とうきょう」「なごや」「おおさか」の3つの文字列を持つ多値を表現する場合 List("とうきょう","なごや","おおさか")
- ・1,2,4,8の4つの整数を持つ多値を表現する場合 List(1,2,4,8)

#### ■ 多値に対する比較演算

多値に対する比較演算は、等しい(==)、等しくない(!=)の2つだけをサポートします。第一項と第二項が、 等しい要素を同じ順番で持つ場合にだけ、等しいはtrueを返し、等しくないはfalseを返されます。 例:

・List(1,2,4,8) != \${user:multiInteger} user:multiInteger が、1,2,4,8の値をこの順で持っていなければ True となります。

#### ▶ 多値に対する数値演算

多値に対して数値演算する際は、第二項は単値でなければなりません。 第一項が多値で、第二項が単値の演算を行った場合、多値のすべての値に対し、単値の値が演算されます。 例:

- ・\${user:multiInteger }+ 3 user:multiInteger のすべての値を +3 する
- ・ \${user:multiInteger} \${user:singleInteger} user:multiIntegerのすべての値から user:singleInteger を引く
- ・\${user:multiString} + " 県 " user:multiString のすべてに「県」を結合する

# 組み込み関数

条件式には、定数として文字列、数値、ブール値を記述できます。日時、リソースを定数として用いるには、 組み込み関数を利用する必要があります。

ここでは、コンポーネントが提供する関数について説明します。

- 補 足
   ・ 関数の記述形式は、次のとおりです。

   { 関数名 }([{ 引数 },{ 引数 },...])
   各関数は、多値が使用できるものには引数の型名の後に [] を付けて表記しています。
   ・ 型として long が指定されている引数に対し、double 型属性を与えることができます。double の値を 0 方向に丸めて long に変換した値が使用されます。
  - ・型として int が指定されている引数に対し、long 型属性を指定できます。しかし、値が次の表の範囲内で ない場合、エラーとなります。

最大値	最小值		
2147483647	2147483648		

#### 日時関連

#### 🔶 Add

· 形式

Date Add(Date date, Duration dur) Date[] Add(Date[] date,Duration dur)

・説明

date に与えられた日時を期間 dur 進めた値を返します。dur が負の場合は、その分戻した値を返します。

- ・パラメータ date:日時 dur:進める期間
- ・戻り値
   指定分進めた(戻した)日時
- ・例

system:modifiedOn が 2021/01/01 12:30:00, 期間が 10 日間の場合 Add(\${system:modifiedOn}, ToDuration("P10D") → 2021/01/11 12:30:00

#### AddYear

・形式

Date AddYear(Date date, int year) Date[] AddYear(Date[] date, int year)

・説明

date に与えられた日時を year 年進めた値を返します。year に負の数を与えた場合は、その分戻した値を返します。year が空値の場合は何もしません。

- ・パラメータ date:日時 year:進める年数
- ・戻り値 指定分進めた(戻した)日時
- ・例

system:modifiedOn が 2021/01/01 12:30:00 のとき、 AddYear(\${system:modifiedOn},1) → 2022/01/01 12:30:00

#### 🔷 AddMonth

・形式

Date AddMonth(Date date, int month) Date[] AddMonth(Date[] date, int month)

・説明

date に与えられた日時を month 月進めた値を返します。month に負の数を与えた場合は、その分戻した 値を返します。month が空値の場合は何もしません。

- ・パラメータ date:日時 month:進める月数
- ・戻り値 指定分進めた(戻した)日時
- ・例 system:modifiedOnが2021/01/01のとき、 AddMonth(\${system:modifiedOn},-3) → 2020/10/01

#### AddWeek

- ・形式 Date AddWeek(Date date, int week) Date[] AddWeek(Date[] date, int week)
- ・説明

date に与えられた日時を week 週進めた値を返します。week に負の数を与えた場合は、その分戻した値 を返します。week が空値の場合は何もしません。

- ・パラメータ date:日時 week:進める週数
- ・戻り値 指定分進めた(戻した)日時
- ・例

system:modifiedOnが2021/01/0112:30:00のとき、 AddWeek(\${system:modifiedOn},2) → 2021/01/15 12:30:00

#### 🔷 AddDay

・形式

Date AddDay(Date date, int day) Date[] AddDay(Date[] date, int day)

・説明

date に与えられた日時を day 日進めた値を返します。day に負の数を与えた場合は、その分戻した値を返 します。day が空値の場合は何もしません。

- ・パラメータ date:日時 day:進める日数
- ・戻り値 指定分進めた(戻した)日時
- ・例

system:modifiedOn が 2021/01/01 12:30:00,user:singleInteger が 10 のとき、 AddDay(\${system:modifiedOn},\${user:singleInteger}) → 2021/01/11 12:30:00

#### AddHour

・形式 Date AddHour(Date date, int hour) Date[] AddHour(Date[] date, int hour)

・説明

date に与えられた日時を hour 時間進めた値を返します。hour に負の数を与えた場合は、その分戻した値 を返します。hour が空値の場合は何もしません。

・パラメータ date:日時 hour:進める時間

 ・戻り値 指定分進めた(戻した)日時

・例 system:modifiedOn が 2021/01/01 12:30:00 のとき、 AddHour(\${system:modifiedOn},12) → 2021/01/02 00:30:00

#### AddMinute

- ・形式
  - Date AddMinute(Date date, int minute) Date[] AddMinute(Date[] date, int minute)
- ・説明

date に与えられた日時を minute 分進めた値を返します。minute に負の数を与えた場合は、その分戻し た値を返します。minute が空値の場合は何もしません。

- ・パラメータ date:日時 minute:進める分数
- ・戻り値 指定分進めた(戻した)日時
- ・例

system:modifiedOn が 2021/01/01 12:30:00 のとき、 AddMinute(\${system:modifiedOn},-10) → 2021/01/01 12:20:00

#### MonthEnd

·形式

Date MonthEnd(Date date) Date[] MonthEnd(Date[] date)

- ・説明 date に与えられた日時の月末の 23:59:59 を返します。
- ・パラメータ date:日時
- ・戻り値 与えられた日時の月末の 23:59:59
- ・例 system:modifiedOnが2021/01/0112:30:00のとき、 MonthEnd(\${system:modifiedOn}) → 2021/01/3123:59:59

#### 🔷 DateFormat

#### ・形式

String DateFormat(Date d,String pattern) String DateFormat(Date d,String pattern,String timezone) String[] DateFormat(Date[] d,String pattern) String[] DateFormat(Date[] d,String pattern,String timezone)

・説明

日時を指定した形式に整形された文字列にして返します。 timezone が省略された場合は、サーバーのタイムゾーンが使用されます。

・パラメータ

d:対象となる日時 pattern:整形パターン文字列(java.text.SimpleDateFormatのパターン定義に準じます) timezone:タイムゾーンを示す文字列(GMT+09:00)など

・戻り値 指定形式に整形された文字列

・例

system:modifiedOn が 2021/01/01 12:30:00 のとき、 DateFormat(\${system:modifiedOn},"yy/M/d H:m:s") → 21/1/1 12:30:0(西暦 2 桁表示。月日字分秒は 1 桁で表せるときは 1 桁で)

#### TimeDiff

#### 形式 Duration TimeDiff(Date finish) Duration[] TimeDiff(Date[] finish) Duration TimeDiff(Date finish, Date start) Duration[] TimeDiff(Date[] finish, Date start)

・説明 終了日 finish と開始日 start の差を取得します。 start が省略された場合、式評価実行時の現在日時が使用されます。

- ・パラメータ finish:終了日 start:開始日
- ・戻り値

```
終了日と開始日の差(単位は日、時、分、秒)
```

・例

```
日時型属性「user:endDate」が 2021-08-15), 日時型属性「user:startDate」が 2021-06-29 のとき
TimeDiff(${user:endDate}, ${user:startDate})
→ 47 日間
```

#### 数値演算

#### 🔷 Abs

- ・形式 Number Abs(Number num)
  - Number[] Abs(Number[] num)
- ・説明 num の絶対値を返します。
- ・パラメータ num:数値
- ・戻り値 num の絶対値

### Pow

- 形式
   Double Pow(Double num, Double p)
   Double[] Pow(Double[] num, Double p)
- ・説明 numのp乗を返します。
- ・パラメータ num:数値 p:べき乗数
- ・戻り値 num の p 乗

# 🔷 Sqrt

- 形式
   Double Sqrt(Double num)
   Double[] Sqrt(Double[] num)
- ・説明 num の平方根を返します。
- ・パラメータ num:数値

・戻り値 num の平方根

#### 🔷 Max

- ・形式
  - Number Max(Number[] list)
- ・説明
  - list に与えられた多値のうち、もっとも大きい値を返します。
- パラメータ
   list:数値型の多値
- ・戻り値 list 内の最大値
- ・例

user:multiIntegerの値が1,2,3のとき、Max(\${user:multiInteger})→3

🔶 Min

・形式

Number Min(Number[] list)

- ・説明 list に与えられた多値のうち、もっとも小さい値を返します。
- パラメータ
   list:数値型の多値
- ・戻り値 list 内の最小値
- ·例
  - user:multiInteger の値が 1,2,3 のとき、Min( ${ser:multiIntege}) \rightarrow 1$

#### 🔷 Sum

- ・形式
- Double Sum(Number[] list)
- ・説明 list に与えられた多値をすべて足した値を返します。
- ・パラメータ list:数値型の多値
- ・戻り値 list 内の数値の合計値
- ・例
  - user:multiIntegerの値が 1,2,3のとき、Sum(\${user:multiInteger})→6

# 文字列操作

#### Begins

- ・形式 Boolean Begins(String str, String prefix) Boolean[] Begins(String[] str, String prefix)
- ・説明 str で指定された文字列が prefix で始まっているかどうかを判定します。
- ・パラメータ str:文字列 prefix:比較する文字列
- ・戻り値 true:prefix で始まっている

false: prefix で始まっていない

・例 system:nameが、"word.doc"のとき、Begins(\${system:name},"word") → true

#### 🔶 Ends

```
・形式
Boolean Ends(String str, String suffix)
Boolean[] Ends(String[] str, String suffix)
・説明
str で指定された文字列が suffix で終わっているかどうかを判定します。
・パラメータ
str:文字列
suffix:比較する文字列
・戻り値
true:suffix で終わっている
false:suffix で終わっていない
・例
system:name、"word.doc" のとき、Ends(${system:name},"word")
→ false
```

#### 🔷 Length

```
・形式
Long Length(String str)
Long[] Length(String[] str)
・説明
str で指定された文字列の長さ(文字数)を返します。
・パラメータ
str:文字列
```

```
    ・戻り値
    文字列の長さ。
    ・例
```

```
Length("東京都")
→ 3
```

#### Matches

```
·形式
```

Boolean Matches(String str, String regex) Boolean[] Matches(String[] str, String regex)

・説明

str で指定された文字列が正規表現 regex にマッチしているかどうかを判定します。 str で指定された文字列が、正規表現として正しくない場合はエラーになります。正規表現の仕様は Java の regexp の仕様に準じます。

```
・パラメータ
str:文字列
regex:正規表現パターン
```

・戻り値
 true:正規表現にマッチしている
 false:正規表現にマッチしていない

・例

Matches(" 東京都 ",".\* 京 .\*") → true

#### ■オブジェクト変換

#### 🔷 ToDate

- ・形式
  - Date ToDate(String str) Date[] ToDate(String[] str)
- ・説明

str で指定された文字列を Date 型に変換する。書式が正しくない場合はエラーとなります。

- ・パラメータ str:文字列
- Sti · 文子?
- ・戻り値日時

#### ToDuration

・形式

Duration ToDuration(String str)

・説明

str で指定された文字列を Duration 型に変換する。書式が正しくない場合はエラーとなります。

- ・パラメータ str:文字列
- ・戻り値 時間
- ToDouble

#### ・形式

Double ToDouble(String str) Double ToDouble(Number num)

・説明

str で指定された文字列または num で指定された数値を明示的に Double に変換します。数値以外の文字 列を指定した場合はエラーとなります。

- ・パラメータ str:文字列 num:数値
- ・戻り値 Double 値

#### ToLong

・形式

Long ToLong(String str) Long ToLong(Number num)

・説明

str で指定された文字列または num で指定された数値を明示的に Long に変換します。数値以外の文字列 を指定した場合はエラーとなります。

- ・パラメータ str:文字列 num:数値
- ・戻り値 Long 値

#### ToString

- 形式 String ToString(Object object) String[] ToString(Object[] object)
- ・説明 object を文字列に変換します。
- ・パラメータ object:文字列化する値
- ・戻り値
   文字列変換された値
- ・例

ToString(true) → "true"

#### ToUniteString

・形式

String ToUniteString(Object[] object, String separator) String ToUniteString(Object[] object, String separator, String prefix)

・説明

多値を separator で区切られた単一の文字列に変換します。

prefix を指定した場合、値の前に prefix で指定した文字列が付与されます。省略時は空文字列が使用されます。

- パラメータ
   object:文字列化する値
   separator:多値の区切り文字として使用する文字
   prefix:各多値の属性値の前に付与される文字列
- ・戻り値
   文字列変換された値
- ・例 ToUniteString([4,5,6], ":") → 4:5:6 ToUniteString([4,5,6], ":"," その ") → その 4: その 5: その 6

# ■ リスト操作

#### Multiple

・形式 Boolean Multiple(Object[] object)

・説明

object で指定されたオブジェクトが多値であるかどうかを判定します。object がリストで、要素数が2以上の場合は、多値と判定します。

object にドキュメント型属性が渡された場合、ドキュメント属性フォルダーの直下に位置するオブジェクトの数が2個以上だった場合に true を返します。

- ・パラメータ object:オブジェクト
- ・戻り値
   true: object は多値である
   false: object は単値である

#### 🔷 Count

- . 11/
  - 形式 Long Count(Object[] list) Long Count(Object[] list,Object target)
  - ・説明

list で指定されたオブジェクトの要素数を返します。第2引数 target が指定された場合、list 内で target と一致する要素の数を返します。

- ・パラメータ list:多値 target:数を数えるオブジェクト
- ・戻り値
   要素数
- ・例

user:multiInteger が 1,1,2,3 だった場合 Count(\${user:multiInteger}) → 4 Count(\${user:multiInteger},1) → 2

#### 🔶 IsNull

- ・形式 Boolean IsNull(Object[] object)
- ・説明 object が null(属性値未設定状態)かどうかを判定します。 判定結果は次の式と同じです。 Count(object)==0
- ・パラメータ list:対象属性値
- ・戻り値 対象属性値が null(未設定)であるかどうか

#### 🔶 List

·形式

Object[] List(Object object, ...)

- ・説明
   引数に与えられたオブジェクトを格納したリストを返します。オブジェクトがリストの場合、それを展開
- して格納します。 ・パラメータ
  - object:オブジェクト
- ・戻り値
   オブジェクトを格納したリスト

#### 🔶 Get

- 形式
   Object Get(Object[] list, int index)
   Object Get(Object[] list, int index, Object default)
   Object[] Get(Object[] list, int[] index)
   Object[] Get(Object[] list, int[] index, Object default)
- ・説明

list の index 番めの要素を取得します。index がリストのサイズより大きかった場合、default が指定され ていればその値が取得できます。default が指定されなかった場合は、リストのサイズより大きな index の値は無視されます。

#### ・パラメータ list:リスト index:欲しい多値のインデックス(多値の最初の要素は1) default:リストのサイズより大きな index が指定された際に返す値

・戻り値 list の index 番めの要素

・例 user:multiIntegerが1,1,2,3 だった場合 Get(\${user:multiInteger},3)→2 Get(\${user:multiInteger},5,10)→10 Get(\${user:multiInteger},5)→(空)

#### Union

- ・形式 Object[] Union(Object[] a,Object[] b)
- ・説明
   多値 a と b の和集合(a ∪ b)を返します。
- ・パラメータ a:オブジェクト b:オブジェクト
- ・戻り値

a∪bのリスト

```
・例
```

user:multiIntegerA が 1,1,2,3、user:multiIntegerB が 2,2,5 だった場合 Union(\${user:multiIntegerA},\${user:multiIntegerB}) → 1,1,2,3,2,2,5

#### InterSection

```
・形式
```

Object[] InterSection(Object[] a,Object[] b)

・説明

多値 a と b の共通部分(積集合 ,a ∩ b)を返します。

- ・パラメータ a:オブジェクト b:オブジェクト
- ・戻り値
  - a∩bのリスト
- ・例

user:multiIntegerA が 1,1,2,3、user:multiIntegerB が 2,2,5 だった場合 InterSection(\${user:multiIntegerA},\${user:multiIntegerB}) → 2

#### Diff

- 形式 Object[] Diff(Object[] a,Object[] b)
- ・説明

多値 a から多値 b の要素を除いた集合(差集合, a-b)を返します。

- ・パラメータ a:オブジェクト
  - b:オブジェクト
- ・戻り値 a-b のリスト

・例

user:multiIntegerA が 1,1,2,3、user:multiIntegerB が 1,2,5 だった場合 Diff(\${user:multiIntegerA},\${user:multiIntegerB}) → 1,3

#### 🔷 Unique

- ・形式
  - Object[] Unique(Object[] list)
- ・説明
   list 内の要素の重複を排除します。
   重複した要素は前の要素に集約されます。
- ・パラメータ list:対象となる値
- ・戻り値
   重複が排除されたリスト
- ・例

user:multiIntegerA が 1,1,2,3 だった場合 Unique(\${user:multiIntegerA}) → 1,2,3

#### Filter

- ・形式 Object[] Filter(Object[] list, Boolean[] filter)
- ・説明

リストの要素のうち、filter の値が true の添え字の要素だけを抜き出します。 list の要素数 < filter の要素数だった場合は、あふれた部分は無視します。 list の要素数 > filter の要素数だった場合は、足りない部分は false とみなします。

- ・パラメータ list:フィルタリングされるリスト filter:フィルタリング対象のリスト
- ・戻り値 list のサブリスト
- ・例

 $\begin{aligned} & \mathsf{Filter}(["a","b","c"], [\mathsf{true},\mathsf{false}]) \rightarrow ["a"] \\ & \mathsf{Filter}(["a","b","c"], [\mathsf{true},\mathsf{false},\mathsf{true},\mathsf{true}]) \rightarrow ["a","c"] \end{aligned}$ 

#### ■論理表現

#### 🔶 lf

・形式

Object[] If(Boolean[] condition, Object trueReturn, [ Object falseReturn ])

・説明

condition の内容が true の場合、trueReturn で指定されたオブジェクトを、false の場合、falseReturn で指定されたオブジェクトを返します。condition が空だった場合は、falseReturn で指定されたオブジェクトを返します。

```
・パラメータ
```

condition:booleanを返す論理式です。多値指定できます。多値が指定された場合は、すべての値が trueだった場合に、論理式がtrueであると判断します。 trueReturn:論理式がtrueである場合に返すオブジェクトです。多値指定できます。 falseReturn:論理式がfalseである場合に返すオブジェクトです。多値指定できます。 省略された場合、空を返します。

・戻り値

trueReturn または falseReturn

・例

単値 long 属性「system:contentSizeBytes」の値が 10,000 以上ならば、"LARGE"、10,000 未満なら ば "SMALL" を返します。

If(\${system:contentSizeByte} >=10000, "LARGE", "SMALL")

単値ブール属性「system: latestEditionFlag」が true ならば、属性「system: editionNumber」の値を、false ならば空を返します。

If( \${system:latestEditionFlag}, \${system: editionNumber})

#### All

・形式 Boolean All(Boolean[] booleanList)

・説明

booleanList の内容がすべて true であるならば、true を返します。booleanList が空ならば、false を返します。

・パラメータ

booleanList:対象とするブール値のリスト

・戻り値

ブール単値 (booleanList がすべて true なら true、それ以外は false)

・例

多値整数属性「user:mulitInteger」の値がすべて 10,000 以上ならば、true を返します。 All(\${user:mulitInteger}>=10000) 多値ブール属性「user:multiBoolean」がすべて true ならば、true を返します。 All( \${ user:multiBoolean })

#### Any

・形式

Boolean Any(Boolean[] booleanList)

- ・説明 booleanList の内容に1つでも true が含まれるならば、true を返します。 booleanList が空ならば、false を返します。
- ・パラメータ booleanList:対象とするブール値のリスト
- ・戻り値

ブール単値(booleanList に true が含まれるならば true, それ以外は false)

・例

多値整数属性「user:mulitInteger」の値に 10,000 以上のものが 1 つでもあれば、true を返します。

・Any(\${user:mulitInteger}>=10000) 多値ブール属性「user:multiBoolean」の値として、1つでも true があれば、true を返します。 Any(\${user:multiBoolean}) true または false の数が知りたい場合、別途 Count 関数を使用します。 Count(\${user:multiBoolean}, true)